



30

年の歩み

NPO法人
近畿バイオインダストリー振興会議

発行：2015年(平成27年)6月
編集・発行：NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-7-18 ビーイングビル7F Tel.06-6459-6795 Fax.06-6447-7011

Index

■ 発刊にあたって	1
■ 近畿バイオインダストリー振興会議の設立	2
■ トピックス	
■ 1990～1999年トピックス	3
■ 2000～2004年トピックス	4
■ 2005～2008年トピックス	5
■ 2009～2011年トピックス	6
■ 2012～2014年トピックス	7
■ 事業別活動の経緯と成果	
■ 近畿経済産業局の施策との連携	8
■ 組織工学・再生医学ワークショップ	9
■ 遺伝子治療シンポジウム	10
■ コンピナトリアル・バイオエンジニアリング会議	11
■ 関西バイオの未来を考える会	12
■ 関西バイオビジネス研究会	13
■ バイオ技術シーズ公開会	14-15
■ 関西バイオビジネスマッチング	16-17
■ 日本バイオベンチャー大賞	18-19
■ 全国バイオネットワーク形成事業	
■ 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー	
■ 海外との交流、新春国際交流会	20-21
■ 生活習慣病予防のための機能的食品開発に関する研究会	22-23
■ 近畿バイオ・バイオマス研究会	24-25
■ 公的資金獲得	26-27
■ 年表	28
■ 近畿バイオの現体制図と事業	29
■ 役員変遷	30
■ 会員リスト	31
■ 協賛一覧	32

発刊にあたって



新 名 惇 彦

はじめに
近畿バイオは、本年設立30周年を迎えました。この間、近畿圏のバイオの振興とともにバイオクラスター形成に向けた各種の活動を展開してまいりました。その成果の一端として「バイオは関西」と自他共に認められるようになりました。この30年間、近畿バイオの活動を支えて頂きました経済産業省、近畿経済産業局、大阪科学技術センター、大阪商工会議所、バイオインダストリー協会、北海道バイオ産業振興協会、英国・カナダ・米国など大阪総領事館、フジサンケイビジネスアイ、大阪科学機器協会など、関係各位に深く感謝申し上げます。

21世紀はバイオの世紀
特にこの10年間のバイオに関わる状況は目まぐるしく動いています。2012年の山中伸弥教授のiPS細胞のノーベル賞受賞を機に再生医療、iPS細胞由来のヒト組織・臓器を用いる創薬は人類に大きな希望を与え、実用化が進み出しています。核酸医薬、抗体医薬、医療機器の進歩もますます加速しています。また、次世代シーケンサーの登場により、病気の診断、治療、創薬など、生命科学に新たな革命が起こりつつあります。メタゲノムは土壌中の微生物のゲノム解析も容易になり、新規有用酵素遺伝子の単離のみならず、農業にも貢献すると思われます。
わが国では世界の先陣を切って高齢化社会に入りました。高騰する医療費の削減に向け、生活習慣病の予防を目指し、機能的食品の開発が拡大しています。その利用を加速させるための規制緩和も動き出しました。

地球温暖化
一方、地球温暖化は深刻な状況にあります。2013年のIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第5次評価報告書は地球温暖化は大気中の二酸化炭素濃度上昇によると断言し、2100年には地球の平均気温は最大4.8℃、海面水位は82cm上昇すると警告してます。これでは私達の子供・孫の世代の生存が危ぶまれます。近年の頻発する早魃、集中豪雨、大型台風などの異常気象にその影響がすでに出ています。化石資源から脱却し、再生可能資源にシフトすることが急がれ、バイオ燃料・化成品の重要性が認識され、実用研究も進んできました。国土の2/3を森林で覆われ、豊富な降雨量があり温暖なわが国には豊富な木質バイオマスがあります。福島原発事故により電力危機を抱えるわが国では木質バイオマス発電は特に重要でしょう。

おわりに
このようにバイオは人類の生存、存続に関わる最重要の科学・技術であります。それには基礎研究の進歩とその成果を人々の日常生活に繋がる実用化に速やかに連動させなければなりません。バイオインダストリーの振興を産学官が一体となって効果的に推進することを目指す近畿バイオインダストリー振興会議は、創立30周年を機に決意を新たにして取り組みたいと思います。古くよりわが国を代表する醸造・製薬・食品・化学・分析機器産業が集積し、バイオのトップレベルの大学、研究機関が多数存在する近畿には、わが国のみならず世界をリードしていく責務があります。関係各位には引き続き倍旧のご厚情を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

近畿バイオインダストリー振興会議の設立

近畿バイオインダストリー振興会議は1985年3月に大阪大学総長の山村雄一先生を中心に、大阪通商産業局長（現・近畿経済産業局長）、大阪科学技術センター会長らが発起人となって設立されました。



近畿バイオインダストリー振興会議

昭和60年(1985年)3月6日に設立総会

委員長：山村雄一 大阪大学総長

副委員長：伊藤健 住友化学工業(株)専務取締役
城阪俊吉 大阪科学技術センター副会長
福井三郎 京都大学名誉教授

幹事長：千畑一郎 田辺製薬(株)専務取締役

監事：神田延裕 (株)三和銀行副頭取
成松啓二 関西電力(株)常務取締役

顧問：山本雅司 大阪通商産業局長

目的：産・学・官が一体となった近畿のバイオインダストリーの振興をより効果的に推進するため、新しい応用分野の開拓、技術開発基盤整備など総合的な振興の検討及びその具体策の推進を図る場として設置されたものである。



委員長
山村雄一

山村雄一(やまむら ゆういち)
1918年7月27日-1990年6月10日
臨床免疫学者。大阪府生まれ。

大阪大学医学部卒。
1949年大阪大学医学博士。「結核菌の安息香酸代謝に就て」。1956年に国立刀根山病院内科医長、1957年に九州大学医学部生化学教授、1962年に大阪大学医学部教授、1967年に同大学医学部長、1979年から1985年まで大阪大学総長を務めた。
癌の免疫療法であるBCG-CWSを作る。

山村雄一先生ご永眠
平成2年(1990年)6月10日

岡田善雄先生(大阪大学細胞工学センター教授)の送る言葉の一節に「…先生は『天の時、地の利、人の和』という言葉で、新しい企画を説得される事が多かった。ある意味で『天の時』と『地の利』は偶然的な色合いが濃い、いわゆる『天命』的なものがある。我々が意識的に努力できるのは、この句の最後に位置している『人の和』ということになろう。そのためであったのであろう、先生は「人が絶てである」と口癖のようにおっしゃっていた…」

TOPICS1990年

第2代委員長に、千畑一郎氏 就任

第5回委員総会：平成2年(1990年)6月21日

特別顧問：福井三郎 京都大学名誉教授

委員長：千畑一郎 田辺製薬(株)代表取締役社長

副委員長：岡田善雄 大阪大学細胞工学センター教授
鳴海欽一 サントリー(株)専務取締役
西澤吉彦 住友化学工業(株)専務取締役

幹事長：山田秀明 京都大学農学部教授
山田康之 京都大学農学部教授

監事：橋本安雄 関西電力(株)常務取締役

顧問：麻生渡 近畿通商産業局長



千畑一郎(ちばた いちろう)
田辺製薬(株)代表取締役社長

1948年京都大学農学部農芸化学科卒業。
同年田辺製薬(株)入社。応用生化学研究所長、研究開発副本部長を経て81年取締役就任。83年常務取締役、85年専務取締役、87年代表取締役副社長、89年から現職。1959年農学博士。

TOPICS1996年

第3代委員長に、秋吉節氏 就任

第11回委員総会：平成8年(1996年)6月18日

特別顧問：福井三郎 京都大学名誉教授

委員長：秋吉節 塩野義製薬(株)相談役

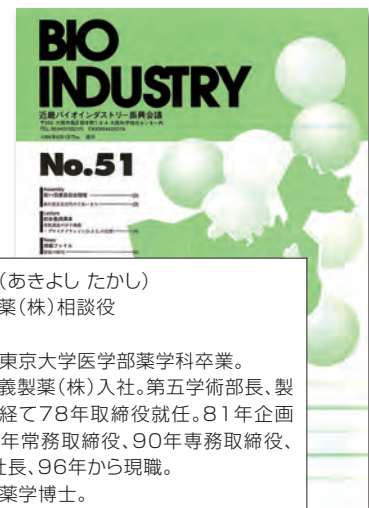
副委員長：岡田善雄 大阪大学名誉教授
安部川佳司 サントリー(株)顧問
新田恒治 松下電器産業(株)取締役研究本部長
五十川昌孝 鐘淵化学工業(株)常務取締役

幹事長：新名惇彦 奈良先端大教授

監事：橋本安雄 関西電力(株)常務取締役
清水庸介 三和銀行常務取締役

顧問：岩田満泰 近畿通商産業局長
千畑一郎 田辺製薬(株)代表取締役社長

事務局長：田村格 塩野義製薬(株)



秋吉節(あきよし たかし)
塩野義製薬(株)相談役

1953年東京大学医学部薬学科卒業。
同年塩野義製薬(株)入社。第五学術部長、製品部長を経て78年取締役就任。81年企画部長、85年常務取締役、90年専務取締役、93年副社長、96年から現職。1987年薬学博士。

TOPICS1999年

近畿圏バイオ技術整備事業受託



バイオ分野の産業化基盤技術、産業化促進のための課題調査し、約300名のバイオ研究者、約600のバイオ技術シーズを集積してまとめた。



バイオ技術シーズを活かすため、シーズ公開会を開始。

- 1 専属コーディネータによるシーズ検討(コーディネータ会議)
- 2 シーズ・ニーズのマッチングの場(技術シーズ公開会)
- 3 JAICとの近畿バイオファンド設立

バイオシーズ産業化のための
バイオ技術シーズ公開会

開催回数 1999年より33回
発表件数 358シーズ
参加者 2,865名

フォローアップ勉強会

研究プロジェクトの創生
バイオベンチャーの創生

TOPICS2001年

第4代委員長に、清水當尚氏 就任

第16回委員総会：平成13年(2001年)6月8日

委員長：清水當尚 大日本製薬(株)

副委員長：岡田善雄 大阪大学名誉教授
大橋武久 鐘淵化学工業(株)
橋本忠夫 サントリー(株)

幹事長：小林昭雄 大阪大学教授

監事：秋山哲夫 関西電力(株)
野村正朗 大和銀行

事務局長：遠山伸次 塩野義製薬(株)



清水當尚(しみず まさなほ)
大日本製薬(株)相談役

1953年京都大学医学部薬学科卒業、同年大日本製薬(株)入社。77年取締役・総合研究所長、80年常務取締役・研究開発所長。85年専務取締役、91年副社長、93年副会長、97年から現職。1961年薬学博士。

TOPICS2002-2003年

近畿産業クラスター計画

「近畿バイオ関連産業プロジェクト」補助事業を受託

2002年7月、当振興会議が中核推進機関として指定を受け、「近畿バイオ関連産業クラスター部会」を発足させ事業を開始。

- 1 近畿圏バイオベンチャー・データマップ、研究者データマップの整備
- 2 技術シーズの収集、産業化可能性の検討(コーディネータ会議)
- 3 技術シーズ公開会の開催
- 4 フォローアップ勉強会の開催
- 5 各種バイオセミナー(異業種からの参入、先端技術の普及)
- 6 情報提供

近畿バイオのNPO法人化

行政等が実施する各種公募事業(地域コンソシアム、補助金等)を直接受託するため、法人格が必要。

2002年	7月18日	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議設立総会(有志で設立)
2002年	8月15日	NPO法人設立認証申請書提出
2002年	12月4日	大阪府知事より認証
2002年	12月11日	設立登録完了
2003年	3月24日	臨時会員総会にて任意団体近畿バイオインダストリー振興会議を解散、すべての財産、権利、義務等をNPO法人近畿バイオインダストリー振興会議に承継することを承認。
2003年	4月1日	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議として活動開始

TOPICS2004年

「関西バイオの未来を考える会」発足

近畿バイオは、近畿圏のバイオの振興とともにバイオクラスター形成に向けた各種の活動を展開してまいりました。その成果の一端として「バイオは関西」と自他共に認められるようになりました。今後、この関西のバイオが期待されるような活力を得て、わが国のバイオの核となるためには、各分野の若手で最新の研究に携わっておられる「関西のバイオニューリーダー」の協力が不可欠です。近畿バイオでは、下記のような先生方の同意を得て、「関西バイオの未来を考える会」を結成し、各ご専門分野の最新のご研究を紹介して議論するとともに産業界への普及を推進することを目的とする。

関西バイオの未来を考える会会員 (50音順)

1. 安達宏昭(大阪大学) 電気工学	10. 黒田俊一(大阪大学) ナノバイオ	19. 福崎英一郎(大阪大学) メタボローム
2. 植田充美(京都大学) コンビバイオ	11. 近藤昭彦(神戸大学) 細胞表層工学	20. 藤井郁雄(大阪府大) 抗体酵素
3. 宇山浩(大阪大学) 物質工学	12. 坂田恒昭(神戸大学) ゲノム創薬	21. 南野直人(国立循環器) プロテオーム
4. 近江谷克裕(産総研) 発光タンパク	13. 杉本直己(甲南大学) 機能分子化学	22. 三宅正人(産総研) セルチップ
5. 梶本修身(大阪外大) 機能性食品	14. 高木昌宏(北陸先端大) タンパク質材料科学	23. 森下竜一(大阪大学) 遺伝子治療
6. 梶本哲也(京都薬大) 医薬品製造	15. 田畑泰彦(京都大学) 再生医療	24. 矢野浩之(京都大学) 生物機能材料
7. 加藤功一(京都大学) 医療材料	16. 玉井克人(大阪大学) 遺伝子治療	25. 山中伸弥(京都大学) ES細胞
8. 家戸敬太郎(近畿大学) マリンバイオ	17. 田丸浩(三重大学) 発生バイオ	26. 吉田和哉(奈良先端大) 植物バイオ
9. 河田照雄(京都大学) 食品機能	18. 橋本堂史(神戸大学) 食品・栄養化学	

TOPICS2004-2005年

地域連携フォーラム開催

近畿圏内のベンチャー間交流のみならず、バイオ研究が盛んな地域間交流の推進するために、2004年北海道バイオ産業振興協会(HOBIA)との交流協定を締結、さらに2005年沖縄・南西地域産業活性化センターとの交流を開始して、北海道ー近畿ー沖縄のバイオベンチャーの連携・交流を目的としてバイオ産業の発展に寄与する。



TOPICS2006年

「食と運動の機能性に関する研究会」発足

本研究会は、健康な生活を維持するための重要な要素である食と運動の機能性の関係を解明し、第3期科学技術基本計画にも謳われている生涯健康な生活ー生涯はつらつ生活を実現するための研究情報を集積し、新しい産業を立ち上げることを目的とする。

また、臨床医・各専門分野の第一人者と開発者との連携と相互理解により、医師が認め消費者に期待される機能性食品の開発を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、我が国の食産業の発展に寄与することを目的とする。

発起人(順不同)

吉川敏一 京都府立医科大学内科学教室 教授	田中宏暁 福岡大学スポーツ科学部運動生理学 教授
荒井綜一 東京農業大学応用生物科学部 教授	高波嘉一 同志社大学スポーツ医科学研究センター 教授
大澤俊彦 名古屋大学大学院生命農学研究科 教授	鳥井信吾 サントリー株式会社 副社長
渡辺恭良 大阪市立大学大学院医学研究科 教授	高橋里美 株式会社カネカ 常務取締役・研究開発本部長
鰐淵英樹 大阪市立大学大学院医学研究科 教授	山田邦雄 ロート製薬株式会社 社長
松村靖夫 大阪薬科大学生命薬科学部門 教授	安部康久 月桂冠株式会社 専務取締役
末松誠 慶応義塾大学医学部医化学教室 教授	森弘之 不二製油株式会社 常務
森谷敏夫 京都大学大学院人間・環境学研究科 教授	田中隆治 財団法人 サントリー生物有機化学研究所 副理事長

TOPICS2007年

「バイオマス研究会」発足

本研究会は、持続可能な社会システムの実現にむけて再生可能な植物バイオマス資源からバイオ燃料はもとより、先端材料、化学製品、医薬品などの多種多様な化合物を統合的に生産する「統合バイオリファイナリー」の確立のため、バイオマス利用分野で活躍されている先生方にご講演をいただき、環境再生、資源回収、化石燃料代替エネルギー等の実用化技術情報を集約し、企業会員と幹事の先生方との密接な連携を図ることを目的として開催する。

発起人(順不同)

新名惇彦 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 教授	宇山浩 大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 教授
福田秀樹 神戸大学自然科学系先端融合研究環 教授	近藤昭彦 神戸大学大学院工学研究科 教授
池道彦 大阪大学大学院 工学研究科環境エネルギー工学専攻 教授	鍋島成泰 株式会社住化技術情報センター
植田充美 京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻 教授	吉田和哉 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 助教授

TOPICS2009年

バイオベンチャー企業一覧作成

産業界に対して、研究成果等を効率的にアピールする機会が少ないバイオベンチャー企業のために、最新の研究開発状況を掲載したPR媒体として、2009年に整備した。以来、毎年更新して、冊子体(2012年はDVD)を作成したが、2013年以降は、WEB上にて随時、更新している。



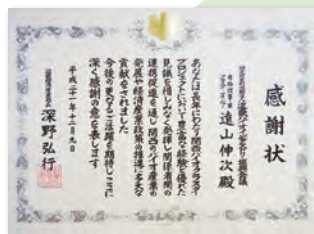
2009年作成冊子



2010年作成冊子



2011年作成冊子



近畿経済産業局から感謝状

2015年現在

<http://www.kinkibio.com/venture/>

TOPICS2010年

「アドバイザーリーボード」設置

地域の産業集積活性化支援事業(近畿経済産業局事業)において、バイオベンチャー企業の研究成果事業化促進のための問題点、意見聴取のため、創業関連、再生医療、医療機器、食関連の分野において「アドバイザーリーボード」を設置する。

ボード委員

【創 業】

森 下 竜 一	大阪大学大学院 医学系研究科 教授
坂 田 恒 昭	塩野義製薬(株) 戦略企画部 部門長
岩 谷 邦 夫	クリングルファーマ(株) 代表取締役社長
湯 山 和 彦	(株)ジーンデザイン 代表取締役社長
小 野 圭 一	大日本住友製薬(株) 常務執行役員

【医療機器】

妙 中 義 之	国立循環器病センター 副所長
岩 田 博 夫	京都大学 再生医科学研究所 教授
前 田 拓 巳	(株)島津製作所 技術推進部長
渡 辺 充	シスメックス(株) 研究開発企画本部長

【再生医療】

川 真 田 伸	先端医療振興財団 上席研究員
木 下 茂	京都府立医科大学 医学研究科 教授
田 口 隆 久	産業技術総合研究所 関西センター所長
小 澤 洋 介	J-TEC(ジェイテック) 代表取締役社長

【食関連】

吉 川 敏 一	京都府立医科大学 医学研究科 教授
寺 尾 純 二	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究科 教授
田 中 隆 治	サントリーホールディングス(株) 技術監

TOPICS2011年

「関西バイオビジネスマッチング」事業スタート

本事業では、世界的に高い成長が見込まれているバイオ関連産業分野において、地域の産学官等が連携して、中小・ベンチャー企業と大企業・中堅企業とのビジネスマッチング、国内他地域の企業とのビジネスマッチングを活性化するための取組を展開することにより、近畿地域に新たな成長産業群としてのバイオ関連産業群を創出することを目的として実施する。



TOPICS2012年

第5代理事長に新名惇彦氏就任

第10回理事総会：平成24(2012年)年6月8日

理 事 長：新 名 惇 彦 奈良先端科学技術大学院大学 副学長

副 理 事 長：田 中 隆 治 星薬科大学 学長
植 田 充 美 京都大学大学院 教授
山 田 正 彦 (株)カネカ 席幹部

専 務 理 事：井 上 了 元大日本製薬(株)

常 務 理 事：坂 田 恒 昭 塩野義製薬(株)
藤 川 茂 昭 サントリーウエルネス(株)

事 務 局 長：魚 谷 信 夫 塩野義製薬(株)



新名惇彦(しんみょう あつひこ)
奈良先端科学技術大学院大学 副学長

1965年大阪大学工学部醗酵工学科卒業。
1970年同大学院工学研究科醗酵工学専
士課程修了(工学博士)、大阪大学工学部醗
酵工学科・助手。1977年米国マサチューセッ
ツ工科大学・博士研究員(1978年まで)
1992年大阪大学工学部応用生物工学科・
教授。1994年奈良先端科学技術大学院大
学バイオサイエンス研究科・教授。2008年
同大学停年退職、名誉教授。2009年同大学
理事・副学長(2013年まで)。2013年同
大学特任教授。
2012年近畿バイオ理事長就任。

TOPICS2013年

会場参加型トークセミナー開始

関西で活躍する企業のトップをお招きしての会場参加型トークセミナーとして、座長に日経BP
宮田満氏をお迎えして、関西で活躍する企業トップのご講演をお伺いした後、会場参加型のフ
リートークを展開する「会場参加型トークセミナー」を新しく企画しました。

- 第一回** 平成25年5月9日
「サラヤのビジネスと持続可能な社会への取り組み」
サラヤ株式会社 更家悠介 社長
-
- 第二回** 平成25年12月12日
「タカラバイオの事業戦略」
タカラバイオ株式会社 仲尾功一 社長
-
- 第三回** 平成26年12月11日
「不二製油でのバイオ取り組み」
不二製油株式会社 海老原善隆 会長



TOPICS2014年

関西ライフサイエンス・リーディング
サイエンティストセミナー発足

ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生
方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食
品、サブリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般
の方々に、健康・健康産業に対するインスピレーションおよび産業化への
イメージーションを与え、また、産官学にわたる組織横断的なコミュニ
ティーの醸成と産官学の対話を促進することを目的として開催する。主
催はNPO法人近畿バイオインダストリー振興会議と公益財団法人都
市活力研究所が行う。

- 第一回** 平成26年9月30日
大阪大学大学院医学系研究科 竹 田 潔 教授
大阪大学大学院薬学研究科 小比賀 聡 教授

カナダサスカチュワンとのマッチング
in OSAKA

カナダサスカチュワン州のバイオ企業を迎えてワークショップ・
ビジネスマッチングを開催する。

日時 平成26年4月23日 **場所** 大阪科学技術センター

【カナダ側機関】

Ag-West Bio, National Research Council Canada-NRC,
Prairie Tide Chemicals, Star Produce Ltd., Biologinal Food
& Science Corp., Prairie Berries

【日本側機関】

不二製油株式会社、ロート製薬株式会社、
奈良先端科学技術大学院大学

近畿経済産業局の施策との連携

産業クラスター政策

地域の中堅中小企業・ベンチャー企業が大学、研究機関等のシーズを活用して、産業クラスター（新事業が次々と生み出されるような事業環境を整備することにより、競争優位を持つ産業が核となって広域的な産業集積が進む状態）を形成し、国の競争力向上を図る。

第1期（2001～5年）産業クラスターの立ち上げ期

クラスターの実態と政策ニーズを踏まえて、国が中心となって進める産業クラスター計画プロジェクトとして20程度を立ち上げ、自治体が独自に展開するクラスターと連携しつつ、産業クラスターの基礎となる「顔の見えるネットワーク」を形成する。

第2期（2006～10年）産業クラスターの成長期

引き続きネットワークの形成を進めるとともに、具体的な事業を展開していく。また、同時に企業の経営革新、ベンチャーの創出を推進する。なお、必要に応じて、プロジェクトの見直し、新たなプロジェクトの立ち上げを柔軟に行う。

第3期（2011～20年）産業クラスターの自律的発展期

ネットワークの形成、具体的な事業展開を更に推進していくとともに、産業クラスター活動の財政面での自立化を図っていき、産業クラスターの自律的な発展を目指す。

関西の強みを活かした地域連携の取組

関西地域健康長寿関連産業活性化協議会（2010年～2014年）

事業の背景と目的

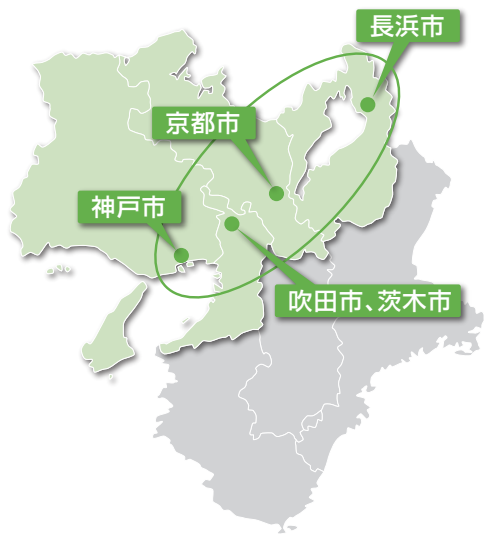
- 平成22年2月に企業立地促進法の広域計画を促進するために発足する。行政機関及び産業支援機関の広域的な連携により、産学連携・人材育成等の支援事業を一体となって実施する。
- 関西地域における最先端の研究拠点と多様な産業集積を活用し、次世代の健康長寿関連ビジネスを創出するとともに、地域内の企業立地件数、製品出荷・新規雇用創出件数の増加を図る。

協議会構成員

- 長浜市、京都市、吹田市、茨木市、神戸市
- 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県
- 大阪商工会議所、神戸商工会議所
- (社)バイオビジネス創出研究会、(財)京都高度技術研究所、(財)千里ライフサイエンス振興財団、(財)先端医療振興財団、(財)神戸市産業振興財団、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

目標に向けた事業環境整備等

- 人材育成セミナー、シンポジウムの開催 →医工人材の育成
- 人的ネットワークの形成、情報提供事業
- 地域連携コーディネーターの配置 →シーズの発掘
- 新事業創出支援
- 産学医の連携支援 →医療現場のニーズによる製品開発
- ビジネスマッチング・販路開拓支援
- 海外クラスターとの連携 →海外とのアライアンスの促進



「組織工学・再生医学 ワークショップ」

再生医療とスーパー特区

JT 生命誌研究館
NPO 法人 AASJ

代表 西川 伸一



主 催 kTi(関西ティッシュ・エンジニアリング・イニシアティブ)、財団法人大阪科学技術センター、近畿バイオインダストリー振興会議、産業クラスター部会

後 援 独立行政法人産業技術総合研究所、近畿経済産業局、神戸市

開催趣旨

日本の研究助成機関はこの10年近くの間多くの研究費を再生医療につぎ込んできました。その見返りとして、研究助成機関と社会は再生医療の早急な実現化を求めています。そのような状況の中で、再生医療研究は厚生労働省から出された幹細胞研究指針の枠を通じた臨床研究という公の場への船出を始めたところです。再生医療にかかわる医師、研究者、研究助成機関、そして市民にとって重要な時期にさしかかっています。本シンポジウムは、再生医療研究における基礎研究から始まり企業化成功例まで、また、指針に沿った臨床研究の実施とその問題点、そして規制の実際などについて考える機会を設けることを目的に、これらの問題に関わる第一人者の講師陣をお迎えして開催いたします。(開催時の案内から)

ワークショップの議題（第6回から記載）

第6回	平成15年10月25日 第1部 再生医療に関するRegulation 第2部 再生医療の日米のトピックス	第12回	平成18年4月22日 第1部 自己細胞を用いた再生医療 第2部 関西の再生医療関連ベンチャー交流会
第7回	平成16年3月6日 第1部 ゲノムベイ東京構想と東西連携 第2部 再生医療関連企業パネル展示	第13回	平成18年11月25日 第1部 体性幹細胞を取り巻く研究指針動向 第2部 長期培養における細胞の機能変化とその規制
第8回	平成16年12月18日 第1部 細胞組織医療材料の製品化のための環境整備 第2部 再生医学と工学	第14回	平成19年8月25日 第1部 再生医療の産業化 第2部 イノベーション施策と再生医療
第9回	平成17年3月12日 第1部 ランゲルハンス氏島移植と膵臓移植の現状と展望 第2部 糖尿病患者団体との連携	第15回	平成20年9月6日 第1部 ヒトES細胞培養法―創薬開発ツールとしての利用 第2部 再生医療の速やかな社会還元を目指して 第3部 先進医療推進のための施策の最近の動向
第10回	平成17年6月4日 第1部 CPCの実際―医療機関の取組み― 第2部 CPCの実際―企業の取組み―	第16回	平成21年9月26日 第1部 スーパー特区の制度とその運用 第2部 スーパー特区の制度を活用して推進する再生医療
第11回	平成17年11月26日 第1部 再生医療 from 再生医学 第2部 ビジネスチャンス in 再生医療	第17回	平成22年9月18日 第1部 指針の見直しとそのreview 第2部 実現化している幹細胞指針適合臨床研究の現状

「遺伝子治療シンポジウム」

我が国における
遺伝子医薬品承認申請に向けた課題と取組み

大阪大学大学院
医学系研究科

教授 金 田 安 史



- 主 催 近畿バイオインダストリー振興会議、近畿バイオ産業クラスター部会
- 後 援 近畿経済産業局、財団法人大阪科学技術センター、大阪商工会議所

開催趣旨

当振興会議では、近畿経済産業局の近畿産業クラスター計画の一環として、「遺伝子治療国際シンポジウム」を企画します。バイオテクノロジー分野の中でも遺伝子治療は、特に将来の有望な治療手段として社会の注目を集めております。遺伝子や合成核酸を用いた難病の分子治療の臨床研究、治療用遺伝子の分離や新規遺伝子導入技術などの研究開発も推進されており、他の機関でも研究開発が盛んに行われています。

このような状況のもと、欧米の研究者とわが国の研究者が一同に会し、遺伝子治療に関する開発状況の現状と将来を議論することにより、遺伝子治療の研究開発・実用化の可能性を探るとともに、わが国における先端医療分野および周辺技術の普及・啓蒙を図り、近畿地域において創薬関連産業のクラスター形成を目的に開催いたします。（開催時の案内から）

シンポジウムの議題

第1回	平成15年2月6日	第1部	遺伝子治療の現状総括	
		第2部	遺伝子治療の技術進展と将来展望	
		第3部	遺伝子治療の臨床研究と将来展望	
第2回	平成16年1月30日	第1部	遺伝子の導入と発現技術の進展	
		第2部	生活習慣病遺伝子治療の進展	
		第3部	遺伝子治療の発展	
第3回	平成17年1月28日	第1部	siRNAの治療薬への応用	第4部 遺伝子治療のための治療薬設計
		第2部	遺伝子探索のためのハイスループットスクリーニング法	
		第3部	画期的な遺伝子診断法とイメージング法の開発	
第4回	平成18年2月3日	第1部	遺伝子治療のための技術革新	
		第2部	感染症の予防と治療	
		第3部	神経変性疾患の予防と治療	
第5回	平成19年2月2日	第1部	遺伝子医薬品の実用化に向けて	
		第2部	国内遺伝子治療ベンチャーの動向	
第6回	平成20年2月1日	第1部	合成系を用いた高機能ベクターの開発	
		第2部	ウイルスを用いた高機能ベクターの開発	
第7回	平成21年1月30日	第1部	遺伝子分離と導入技術の開発	第4部 遺伝性疾患への応用 第5部 遺伝子治療の将来像
		第2部	癌治療への応用	
		第3部	循環器疾患への応用	
第8回	平成22年2月5日	第1部	国内外の遺伝子医薬品の現状	
		第2部	遺伝子治療臨床研究申請の問題点	
		第3部	遺伝子医薬品開発の現状と要望	

「コンビナトリアル・バイオエンジニアリング会議」

京都大学大学院
農学研究科

教授 植 田 充 美



- 主 催 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
- 後 援 コンビナトリアル・バイオエンジニアリング研究会、(社)未踏科学技術協会・「生命をはかる」研究会、コンビナトリアルバイオ工学会、ナノバイオテクノロジー部会、近畿経済産業局、日本生物工学会、文部科学省科学研究費特定領域「ライフサーベイヤー」

開催趣旨

生命活動を動的に解析するプローブやシステムを研究開発する新分野「ライフサーベイヤー」（後援の(社)未踏科学技術協会・「生命をはかる」研究会の和田昭允先生のご提唱）研究分野を日立・中研の神原秀記先生をリーダーに、科研費特定領域研究で創成・育成してきました。現在、オミックスやインタラクトームなどの多変数解析を踏まえ、生命や生物の動的なダイナミックスを自然の姿のままに捉え、究極的にはシングルセル解析を目指して生命現象を定量的に測定していく研究へと展開してきています。これまでに得られた研究手法を、「不思議」のあふれる生命現象の解析研究に融合させて貢献していくには、という点を大命題に、この「生命の不思議」を研究されている先生方をお招きして議論してゆきたいと考えております。（開催時の案内から）

フォーラムの議題

第1回	平成16年7月21日	議 題	コンビナトリアル・バイオエンジニアリング 分子ディスプレイの発展
第2回	平成17年10月20日	議 題	ヒューマン・ライフサイエンス・フォーラム
第3回	平成18年11月10日	議 題	「分子ライブラリー」構築に向けた コンビナトリアル・バイオエンジニアリングの挑戦
第4回	平成19年11月9日	議 題	定量的生命計測研究からの現代科学と 社会へのメッセージライフサーベイヤーの構築に向けて
第5回	平成20年11月7日	議 題	ポストゲノムデータベース時代の幕開け バイオテクノロジー新時代をゆく
第6回	平成21年11月13日	議 題	生命の不思議をはかるために
第7回	平成22年11月12日	議 題	感覚の不思議をはかるために

「関西バイオの未来を考える会」

設立の経緯と趣旨

近畿経済産業局のバイオクラスター形成計画の推進に協力して活発に活動を行っており、創生・育成に関わったバイオベンチャーも20数社に進展した。今後バイオテクノロジーが期待されるような力を発揮し、わが国のバイオ産業の核となるべく発展していくためには、各分野を牽引する" 関西のバイオニューリーダー "と言える先生方の英知の結集が必要と考え、「関西バイオの未来を考える会」を平成16年に発足させ、最先端のバイオ技術について議論するとともに広く産業界への普及を推進する。

講演者

第1回 2005年2月28日	福崎英一郎(大阪大学大学院工学研究科応用生物工学専攻 助教授) 田丸 浩(三重大学生物資源学部生物圏生命科学科 助教授) 梶本 修身(大阪外国語大学 助教授)	藤井 郁雄(大阪府立大学大学院先端科学研究所 教授) 坂田 恒昭(神戸大学大学院自然科学研究科 教授)
第2回 2005年6月20日	杉本 留三(経済産業省産業技術環境局研究開発課 課長補佐) 安達 宏昭(大阪大学大学院工学研究科 助手)	玉井 克人(大阪大学大学院医学系研究科 助教授) 高木 昌宏(北陸先端科学技術大学院大学材料科学研究科 教授)
第3回 2005年11月11日	田畑 泰彦(京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究分野 教授) 杉本 直己(甲南大学先端生命工学研究所 所長)	
第4回 2006年5月23日	黒田 俊一(大阪大学産業科学研究所生体触媒科学研究分野 助教授) 家戸敬太郎(近畿大学水産研究所 助教授)	梶本 哲也(京都薬科大学薬品製造学教室 助教授) 矢野 浩之(京都大学生存圏研究所生物機能材料分野 教授)
第5回 2006年10月2日	吉田 和哉(奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 助教授) 河田 照雄(京都大学大学院農学研究科食品生物科学専攻 教授)	山中 伸弥(京都大学再生医科学研究所再生誘導研究分野 教授) 宇山 浩(大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 教授)
第6回 2007年7月13日	近藤 昭彦(神戸大学大学院工学研究科 教授) 南野 直人(国立循環器病センター研究所薬理部 部長)	橋本 堂史(神戸大学大学院農学研究科食品・栄養化学 助教) 加藤 功一(京都大学再生医科学研究所 准教授)
第7回 2008年1月21日	近江谷 克裕(北海道大学医学研究科 教授) 三宅 正人(産業技術総合研究所細胞情報工学研究 グループ長)	渡部 邦彦(京都府立大学農学研究科 教授) 民谷 栄一(大阪大学大学院工学研究科 教授)
第8回 2008年5月26日	田畑 泰彦(京都大学大学院再生医科学研究所 教授) 池 道彦(大阪大学大学院工学研究科 教授)	福崎英一郎(大阪大学大学院工学研究科 教授) 植田 充美(京都大学大学院農学研究科 教授)
第9回 2009年2月16日	藤原 伸介(関西学院大学理工学部生命科学科 教授) 安達 宏昭(株式会社 創晶 代表取締役社長)	近藤 昭彦(神戸大学大学院工学研究科 教授) 児玉 崇(株式会社 トラスト 代表取締役社長)

「関西バイオビジネス研究会」

設立の経緯と趣旨

日本公認会計士協会近畿会、日本弁理士会近畿支部、大阪弁護士会の三つの専門士業が協力し合って関西のバイオ産業を積極的に支援しようということで、「バイオサポーターズ三会協議会」が2003年10月に発足しました。当振興会議は、バイオの基礎知識・専門用語・専門知識を習得するための勉強会の設定・運営を支援してきました。さらに、具体的なビジネスモデル作成等の事例研究会も支援しております。

2004年10月には、三会のバイオビジネスに関する専門知識を有する専門家で構成した「関西バイオビジネス研究会」を発足させ、バイオベンチャー企業の創業支援、経営支援等に役立つ特許戦略、財務戦略、法務戦略等の研修を開始しております。その実践の中から設立されたベンチャー企業を支援しています。

また、2015年2月には、「バイオサイエンス」を事業にする手引き書『ビジネスプラン策定のポイント』が近畿経済産業局により製作されております。

バイオ起業「3土」の援

「援(えん)」は、「たすける」という意味を持ち、その意味通り2004年～2010年までの6年間で3社の立ち上げを後押ししてきた。活動はすべてボランティア。「全国でもここだけ」という珍しい取り組みを行った。



研究会が支援して設立された主な企業

社 名	マグナビート 株式会社	事業内容
所在地	千葉県 市原市	熱応答性磁性ナノ粒子の販売、市場開発、用途開発、技術サポート及び検査診断システムや診断薬材料の開発・研究。
設立時期	2005年7月	
代表者	代表取締役 大 西 徳 幸	
社 名	株式会社 BNA	事業内容
所在地	大阪府 茨木市	スーパー人工核酸BNAに関する核酸医薬品の開発研究、遺伝子診断技術開発、各種BNAの製造と販売、新規BNAの開発と知的財産化(特許化)等。
設立時期	2008年5月	
代表者	代表取締役 河 原 三 紀 郎	
社 名	株式会社 プロテクトィア	事業内容
所在地	大阪府 茨木市	カテキン誘導体を利用した感染症対策部材等の各種製品の研究開発・製造・販売、化合物・技術シーズに関する受託合成・分析・評価。
設立時期	2010年6月	
代表者	代表取締役社長 内 田 国 克	

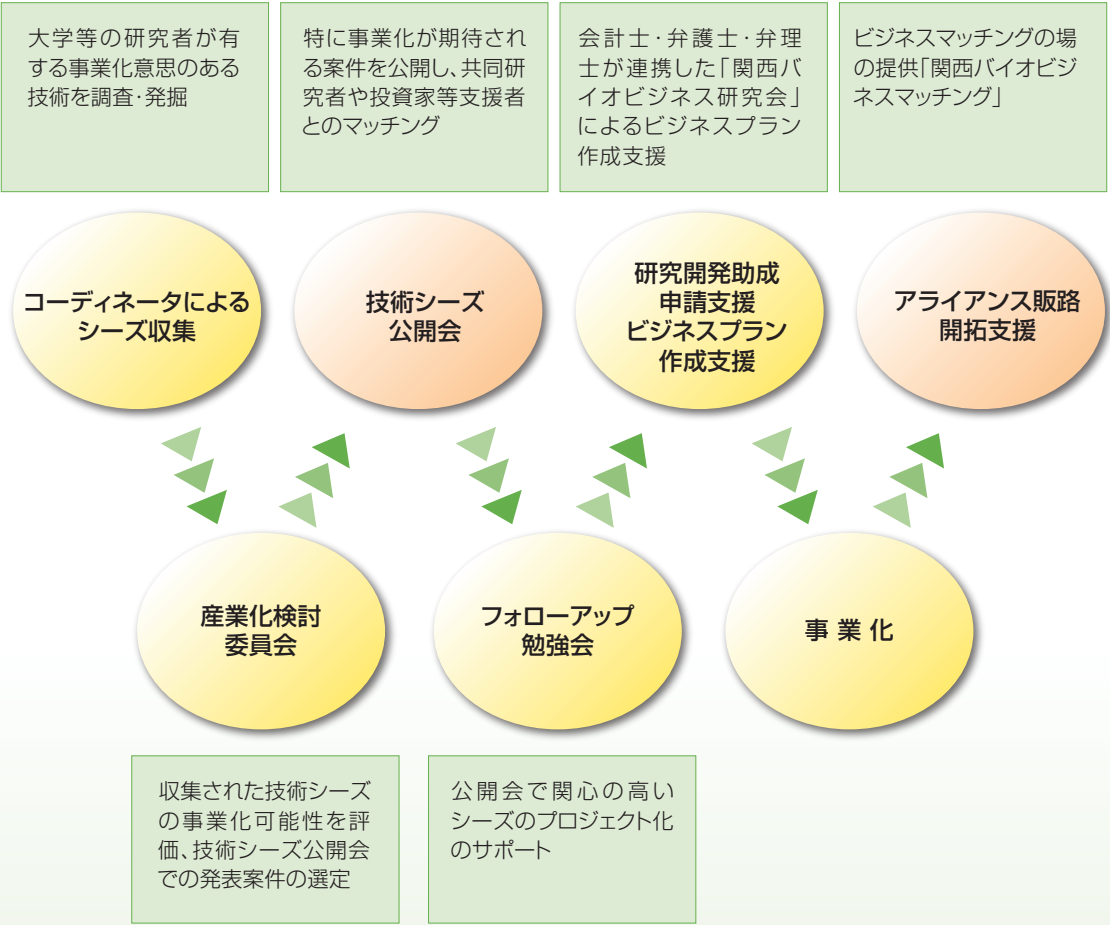
バイオ技術シーズ公開会

設立の経緯と趣旨

1999年に通商産業局よりJBAを介して近畿圏バイオ技術基盤整備事業を受託して、近畿圏のバイオ分野の産業化基盤技術、産業化促進のための課題を調査した結果、基盤技術として1999年当時約300名のバイオ研究者、約600のバイオ技術シーズが存在することが判明しました。にもかかわらずそれらが産業化されていない原因としては、①バイオ技術シーズ・ニーズのマッチングのためのコーディネート機能、また、マッチングのための場の欠如、②バイオ研究のためのインキュベーターの欠如、③スタートアップ時の資金の欠如、この3つの課題があると判断しました。

そこで、解決策として会員企業OBでバイオ知識豊富な方、大学の名誉教授らにお願いして、収集したバイオ技術シーズの産業化可能性を検討する専属コーディネーターに就任していただき、コーディネーター会議を設けて検討いただいた技術シーズとニーズをマッチングさせるための技術シーズ公開会を開催しました。

事業化に向けての一貫したハンズオン支援



この事業を通じて40名もの企業家マインドをもった若いポストドク等のコーディネータを育成するとともに、自らがベンチャー企業を立ち上げたコーディネータも育てることができた。

成果事例 1

NPO近畿バイオが創出・育成をしたベンチャー各社(例)

1999年の第1回の公開会から2015年2月時点で第33回の開催となり、発表件数は358シーズ、その参加者数は延べ2865名となりました。このシーズ公開会を通じた研究プロジェクト、バイオベンチャーが数多く生まれています。

- | | | |
|-------------------------|---------------------|------------------------|
| ■ アンジェスMG 株式会社 | ■ クリングルファーマ 株式会社 | ■ 株式会社 ジェノラックBL |
| ■ AntiCancer Japan 株式会社 | ■ カルナバイオサイエンス 株式会社 | ■ ジェノミディア 株式会社 |
| ■ 株式会社 ジーンデザイン | ■ 株式会社 創晶 | ■ 株式会社 ハイベップ研究所 |
| ■ オーストリッチファーマ 株式会社 | ■ 株式会社 ジェイテック | ■ 株式会社 京都コンステラ・テクノロジーズ |
| ■ 株式会社 BNA | ■ 株式会社 エマオス京都 | ■ 株式会社 京都モノテック |
| ■ 株式会社 バイオエックス | ■ 株式会社 魁半導体 | ■ Bio-energy 株式会社 |
| ■ 株式会社 植物ハイテック研究所 | ■ 株式会社 バイオマーカサイエンス | ■ 株式会社 ファーマフーズ |
| ■ 日本アドバンスアグリ 株式会社 | ■ 株式会社 フェアリーエンジェル | ■ バイオベース 株式会社 |
| ■ 株式会社 グリーンバイオ | ■ バイオリーダースジャパン 株式会社 | ■ 株式会社 ミレニウムゲートテクノロジー |
| ■ バイオサイトキャピタル 株式会社 | ■ マグナビート 株式会社 | ■ グリーンゴールドバイオシステム 株式会社 |
| ■ メド・ソリューション 株式会社 | ■ 有限会社 ビック・ワールド | ■ 株式会社 バイオセレンタック |
| ■ 株式会社 ビークル | ■ 株式会社 カルディオ | ■ 株式会社 プロテクトア |
| ■ ネオケミア 株式会社 など | | |

成果事例 2 第10回シーズ公開会（平成15年11月14日 開催）

発表者	機関名	所属	役職	テーマ
高橋 和 利	奈良先端科学技術大学院大学	遺伝子教育研究センター	研究員	ERasとNanogによる幹細胞の多能性と増殖能の改善
山中 伸 弥（iPS細胞研究所長・教授）「ノーベル生理学・医学賞」を受賞（2012年10月8日）				

成果事例 3

第13回シーズ公開会（平成17年2月18日 開催）

「コンビナトリアル・バイオエンジニアリングによる新規生体機能分子の創出」

藤井 郁 雄 大阪府立大学大学院 農学生命科学研究科

フォローアップ勉強会（平成17年3月15日 開催）

「コンビバイオを基盤とした低分子医薬リード化合物の開発技術」

内閣総理大臣表彰「第5回 ものづくり日本大賞」製品・技術開発部門「経済産業大臣賞」（平成25年9月13日）

AS OneCell picking システム

100万規模の細胞から1個の細胞を生きたまま回収

「世界初マイクロチップでの単一細胞全自動解析・回収装置の商品化」我が国の医療分野における、創薬や再生医療研究における貢献に期待

アズワン株式会社



成果事例 4 新社屋へ移転



株式会社 ジェイテック 大阪府茨木市の開発センター

株式会社 ジーンデザイン 大阪府茨木市の本社

成果事例 5



株式会社ファーマフーズ 2006年6月 東京証券取引所マザーズへ株式上場



京都市西京区の本社

関西バイオビジネスマッチング

開催趣旨

世界的に高い成長が見込まれるバイオ関連産業分野において、地域の産学官等が連携して、中小・ベンチャー企業と大・中企業とのビジネスマッチングに加え、国内他地域の企業とのビジネスマッチングを活発化するための先導的な取組みを展開することにより、バイオ関連産業における新たなイノベーションの誘発、当該産業への参入・転換を促進し、近畿地域に新たな成長産業群としてのバイオ関連産業群を創出することを目的として、近畿経済産業局との委託、補助、共催で開催している。

基調講演者

第1回	2011年2月7日、8日	臼井 玲（レイライフサイエンス有限会社 代表取締役） 山崎 清一（いちよし経済研究所 業調査部 首席研究員） 秋元 健吾（サントリーホールディングス株式会社 知的財産部 課長） 高橋 慶人（株式会社カネボウ化粧品 価値創成研究所 主任研究員）
第2回	2012年2月7日、8日	井垣 太介（弁護士法人北浜法律事務所） 土井 尚人（株式会社ヒューマン・キャピタル・マネジメント 代表取締役社長） 鬼頭 守和（味の素株式会社 研究開発企画部 専任部長） 林 昭伸（株式会社コーセー 研究所 開発研究室 室長）
第3回	2013年2月6日	佐藤 太郎（産業革新機構 戦略投資G 執行役員 マネージングディレクター） 柴田 浩志（サントリーウエルネス株式会社 執行役員 健康科学研究所長）
第4回	2014年2月5日	田中 隆治（星薬科大学 学長）
第5回	2015年1月27日	森下 竜一（大阪大学大学院 医学系研究科 教授）



▲2011年ポスター



▲2011年パンフレット

マッチング成功事例

平成23年2月に開催した「関西ビジネスマッチング2011」におけるマッチング成功事例として、サンスター株式会社から平成25年1月9日に新商品が発売されました。

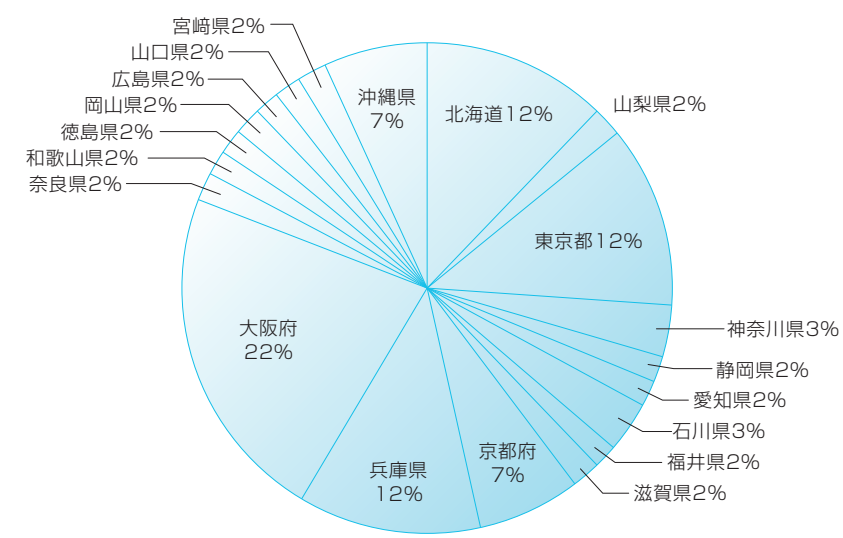
以下、同社のニュースリリースを一部抜粋して掲載させていただきます。

「エクイタンス イノセンスクリア [美容飲料、清涼飲料水]」

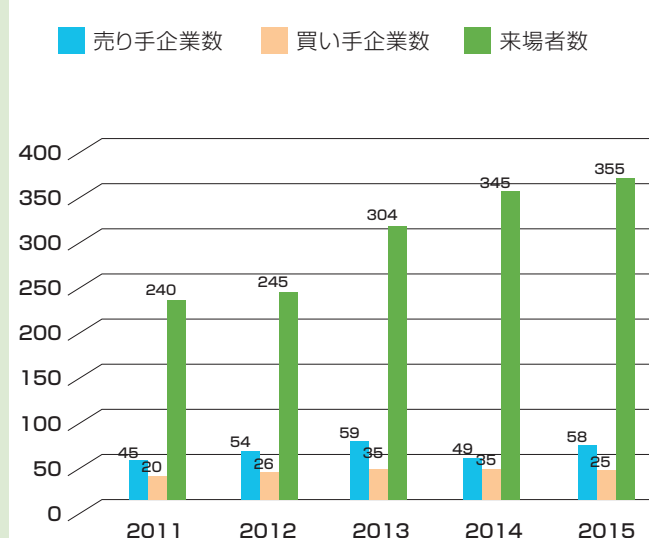
『濃熟ETGエキス』（ハトムギ由来）配合で、体内の内側から輝く透明感を導く美容飲料、「エクイタンス イノセンスクリア」を、2013年1月9日（水）より新発売します。



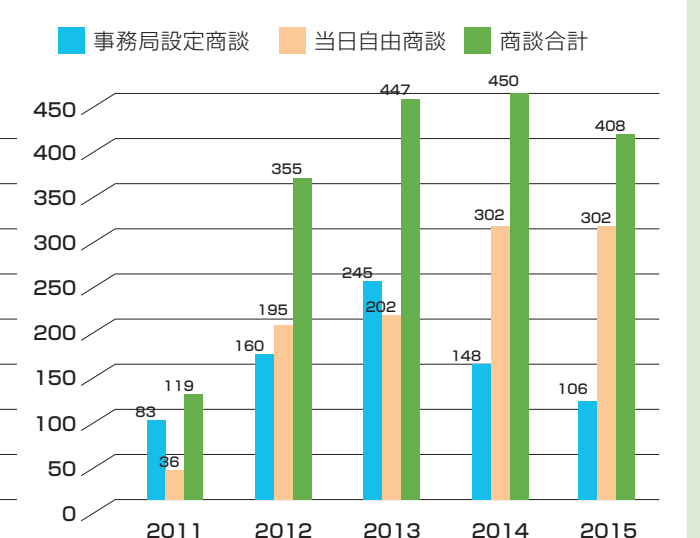
■ 売り手企業 地域別参加分布



■ 関西バイオビジネスマッチング 参加企業・人数推移



■ 関西バイオビジネスマッチング 商談件数推移



先進的な中堅・中小企業、ベンチャー企業の可能性を広げる、いろいろな取り組み

日本バイオベンチャー大賞

独創的なバイオ関連技術・製品・サービスを事業化し、起業家、また事業家として経営に邁進する先進的な中堅・中小企業、ベンチャー企業(大学発ベンチャー、企業内ベンチャー含む)を対象に、フジサンケイビジネスアイが主催する日本バイオベンチャー大賞の後援を行い、平成14年から平成21年まで近畿バイオインダストリー振興会議賞としてベンチャー企業の表彰を行った。

日本バイオベンチャー大賞

第1回	平成14年 3月 6日	アンジェスMG 株式会社
第2回	平成15年 2月 5日	株式会社 総合医科学研究所
第3回	平成16年 2月 3日	該当企業なし
第4回	平成17年10月19日	株式会社 ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
第5回	平成19年10月18日	株式会社 ホソカワ粉体技術研究所
第6回	平成21年10月21日	クリングルファーマ 株式会社
第7回	平成24年 2月29日	プレシジョン・システム・サイエンス 株式会社
第8回	平成25年 2月 7日	ペプチドリーム 株式会社
第9回	平成27年 2月27日	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ 株式会社

近畿バイオインダストリー振興会議賞

第1回	平成14年 3月 6日	株式会社 ファーマフーズ
第2回	平成15年 2月 5日	株式会社 サンルイ・インターナショナル
第3回	平成16年 2月 3日	ネオケミア 株式会社
第4回	平成17年10月19日	株式会社 フェニックスバイオ
第5回	平成19年10月18日	アルブラスト 株式会社
第6回	平成21年10月21日	バイオ21 株式会社



全国バイオネットワーク形成事業(JBA受託)

研究者の有する技術シーズ(基礎研究シーズ、産業化に結びつきやすいシーズ、市場性に課題を残す技術シーズ等)を評価して、それぞれの段階にあった指導・助言を行い、事業化・製品化に向けたより優れた技術シーズを育成・見出すため、バイオ分野に造詣の深い専門知識をもった方々にその研究開発の促進や事業化の可能性について審議していただくネットワーク形成推進委員会を設立して事業化を推進する。

第1回 委員会 平成15年6月11日発足～平成20年度まで開催

委員長 小林 昭 雄 (大阪大学大学院工学研究科 教授)

委員 清水 當 尚 (近畿バイオインダストリー振興会議 理事長)
荒 井 基 夫 (大阪府立大学大学院農学生命科学研究科 教授)
宮 本 和 久 (大阪大学大学院薬学研究科 教授)
細 川 信 義 (エンゼル証券(株) 代表取締役)
大 井 満 彦 (三井物産戦略研究所バイオ センター長)
橋 本 久 芳 ((財)大阪産業振興機構新産業支援部アドバイザー)
荒 河 敏 (元大日本製薬(株) 研究所部長)
田 村 格 (大阪科学技術センター技術・情報振興部 部長)
八 島 毅 祐 (近畿経済産業局バイオインダストリー振興 室長)
井 上 了 (近畿バイオインダストリー振興会議 事務局長)
遠 山 伸 次 (近畿バイオインダストリー振興会議 専務理事)

オブザーバー 大 平 昌 幸 (近畿経済産業局)
小 谷 純 二 (近畿経済産業局)

関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・健康産業に対するインスピレーションおよび産業化へのイメージーションを与えることを目的として、産官学にわたる組織横断的なコミュニティを醸成して産官学の対話を促進する。本セミナーは全10回を予定して、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題を提供いただき、講師の先生と直接お話しいただける場を提供します。

平成26年9月発足～現在

第1回 平成26年9月30日
竹 田 潔 (大阪大学大学院医学系研究科 教授)
小比賀 聡 (大阪大学大学院薬学研究科 教授)

第2回 平成26年12月15日
下村伊 一郎 (大阪大学大学院医学系研究科 教授)
水 口 賢 司 (医薬基盤研究所 プロジェクトリーダー)

第3回 平成27年3月4日
金 井 好 克 (大阪大学大学院医学系研究科 教授)
奥 野 恭 史 (京都大学大学院医学研究科 特定教授)



主催:近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所
後援:大阪医薬品協会

海外との交流

Local to Local産業交流事業

日本貿易振興会(JETRO)の支援事業として平成13年にローカル・トゥ・ローカル産業交流事業(LL事業)を受託した。地域経済の活性化を目的として、日本の地方企業と外国の企業との国際ビジネス交流を支援して、双方の企業にメリットのある物、技術、経営ノウハウや資本の交流への発展を目指す。近畿地域と英国スコットランド地域の医療・医療福祉機器分野企業のビジネス交流を平成15年まで計5回実施する。



サスカチュワン州との連携

平成22年にMOUを締結し、サスカトゥーン、大阪双方でシンポジウム、企業や研究機関の訪問などを行ってきた。

Ag-West Bio was established in 1989 and is supported through funding by the Ministry of Agriculture, Province of Saskatchewan and strives to be a catalyst for building a strong agricultural biotechnology cluster in Saskatchewan.



オランダフードバレーとの連携

平成21年にMOUを締結し、オランダフードバレー訪問や会員企業へのフードバレーの紹介などを行ってきた。

Core of the Dutch Food Valley is the interaction between research and business with the aim to enhance the innovation strength of the agrifood sector. Wageningen University and Research Centre, NIZO Food Research, TNO Quality of life, Rikilt Food Safety Institute and Plant Research International play a key role.



日韓バイオマス研究会

- 第1回 2007年12月 7日 ソウル
- 第2回 2008年12月20日 神戸(神戸大)
- 第3回 2009年11月 6日 ソウル
- 第4回 2010年11月 5日 京都(月桂冠)
- 第5回 2011年 6月23日 慶州(KMB)
- 第6回 2012年10月25日 神戸(生物工学会)
- 第7回 2013年 7月 4日 ピョンチャン(KMB)
- 第8回 2014年 9月10日 札幌(生物工学会)



新春国際交流会(毎年1月開催)

近畿バイオインダストリー振興会議には英国領事館、カナダ領事館はじめ外国のバイオ関連機関が10数社お見えになっておられます。そこで、新春の催しとして、会員各位と各国バイオ関連機関の交流の場「新春賀詞交歓会」として、新春国際交流会を平成14年から開催しております。



生活習慣病予防のための 機能性食品開発に関する研究会

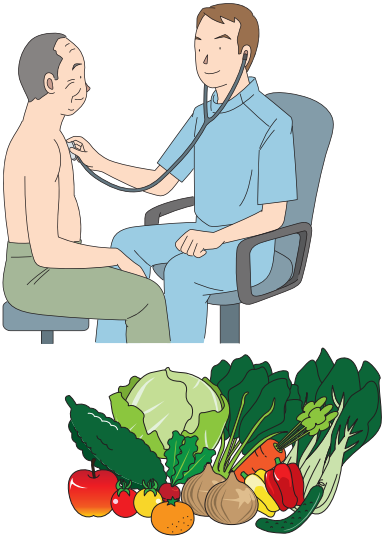
2006年8月「食と運動の機能性に関する研究会」として発足、2010年から「生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会」と改めて開催する。

第一期 2006年発足～2010年

「食と運動の機能性に関する研究会」
～関西における食・運動関連クラスター形成に向けて～

開催趣旨

本研究会は、健康な生活を維持するための重要な要素である食と運動の機能性の関係を解明し、第3期科学技術基本計画にも謳われている生涯健康な生活―生涯はつつ生活を実現するための研究情報を集積し、新しい産業を立ち上げることを目的とする。



第二期 2010年～現在

「生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会」
～アグロメディカル・イニシアティブとの連携～

開催趣旨

臨床医・各専門分野の第一人者と開発者との連携と相互理解により、医師が認め、消費者に期待される機能性食品の開発を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、食産業の発展に寄与する。
「くすり」の専門家である薬剤師も含め、健康食品が「予防医学・代替医療」として有効に生かされるよう、科学的根拠に基づいた健康食品の機能性、有効性および安全性を議論し、健康食品の信頼性を高める場とした研究会を開催する。

活動内容

1. 4回／年 医師の講演を中心とした研究会の開催
2. 会員等のシーズ(健康素材)の紹介と専門家の助言
3. 医師、食品開発企業、薬局・薬剤師との交流

研究会委員会 2015年3月時点

会 長	吉 川 敏 一（京都府立医科大学 学長）	副会長	田 中 隆 治（星薬科大学 学長）
委 員	大 澤 俊 彦（名古屋大学大学院 教授） 大 東 肇（福井県立大学 教授） 寺 尾 純 二（徳島大学大学院 教授） 民 谷 栄 一（大阪大学大学院 教授）	栗 木 隆（江崎グリコ(株) 取締役常務執行役員） 山 田 正 彦（カネカ(株) 企画担当 上席幹部） 荒 井 綜 一（東京農業大学 教授） 亀 井 淳 三（星薬科大学 教授）	
事務局	近畿バイオインダストリー振興会議		

講 演 テ ー マ		講 演 者（敬称略）	
2010年 1月27日	パーソナライズド・ニュートリションを目指したバイオセンサー	大阪大学大学院 工学系研究科 教授	民谷栄一
	食品機能成分のスクリーニングと運動の併用効果	奈良女子大学 生活環境学部 書物栄養	井上裕泰
	透析患者における抗疲労臨床試験の事例	大阪市立大学大学院 医学研究科	福田早苗
	予防医療の実践に向けたバイオマーカーの研究開発	(株)バイオマーカーサイエンス 解析センター	中西 守
	シームレスカプセル化技術とその応用の可能性	森下仁丹(株) バイオファーマ研究所	浅田雅宣
7月6日	体質改善サプリ：カネカ・グラボノイド	カネカ(株) QOL事業部	中川 格
	卵白ペプチド―ランペップが血管拡張・血流改善に与える効果	(株)ファーマフーズ 開発部	佐内勇亮
	「生活習慣病研究会」開催の趣旨	京都府立医科大学 消化器内科学教室 教授	吉川敏一
	腎障害の発症機序と食品による予防と改善	医療法人良秀会 藤井病院 岸和田藤井第2診療所	宗正 敏
	メタボ時代の大腸癌発症機序と食品による予防	京都府立医科大学大学院 医学研究科 准教授	内藤裕二
9月6日	皮膚と体型の見た目のエージング	北里大学 名誉教授	塩谷信幸
	脳の老化の機序と食品による予防と改善	杏林大学 医学部 精神神経科学教室 教授	古賀良彦
	ドライマウスの発症機序と食品による予防と改善	鶴見大学 歯学部口腔病理学講座 教授	斎藤一郎
	11月8日 老化の共通基盤である酸化ストレスと食品による予防	大阪大学大学院 工学系研究科 教授	森下竜一
	ケルセチンによる高血圧予防	京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授	丸中良典
2011年 3月2日	食事と行動変容による成人病疾患予防の最前線	日経BP社 医療局 主任編集委員	宮田 満
	変形性膝関節症の病態と食品による予防・改善	大阪大学 整形外科 助教	前 達雄
	炎症性腸疾患の発症機序と腸内細菌叢	滋賀医科大学 消化器内科 教授	藤山佳秀
	老人性難聴の発症機序と食品による予防と改善	東京大学大学院 工学系研究科 教授	山岨達也
	7月25日 医農連携へ向けての新たな挑戦	京都府立医科大学 内科学教室 教授	吉川敏一
10月20日	網羅的プロテオミクスが明らかにする栄養動態変動の機序	大阪大学大学院 工学系研究科 教授	金井好克
	肝臓の栄養代謝からみた食と疾病予防対策	金沢大学大学院 工学系研究科 第一内科 教授	金子周一
	医農連携へ向けての新たな挑戦	京都府立医科大学 学長	吉川敏一
	前立腺癌の発症機序と食品による予防と改善	帝京大学 医学部 泌尿器科講座 主任教授	堀江重郎
	北海道産素材の機能性評価の取り組み	(株)アミノアップ化学 研究部 主任研究員	三浦健人
11月17日	還元型コエンザイムQ10 一食事からもきちんと摂りたいー	(株)カネカ QOL事業部 幹部職	藤井健志
	アンチエイジング素材としての明日葉カルコン、長命草	タカラバイオ(株) 機能性食品部	大野木宏
	大豆由来の脂質代謝調節機能素材PIPSナガセ	ナガセケムテックス(株) 研究員	渥美祐太
	歯周病バイオフィルムを制御する鶏卵抗体(IgY)の開発	(株)ファーマフーズ 開発部 第2グループ長	山下裕輔
	LOX-1を用いた変性LDL(酸化LDL)の活性測定法の確立	(株)バイオマーカーサイエンス 解析センター長	大木 誠
2012年 2月28日	カナダサスカチュワン州Ag-west bioの紹介	Ag-west bio President	Wilf Keller
	温州みかんの三ケ日コホート研究	(独)農研機構 果樹研 主任研究員	杉浦 実
	脱脂大豆からの機能性食品への利用	不二製油(株) 執行役員	廣塚元彦
	植物が生産するヒアルロン酸	東洋紡績(株) 総研	柴谷滋郎
	生活習慣病予防のための機能性食品研究	京都府立医科大学 学長	吉川敏一
7月2日	研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)の紹介	(独)科学技術振興機構 技術移転ﾌﾟﾗﾅｰ	谷村修也
	A-STEP採択研究「消化管は全身の新たな司令塔」	京都府立医科大学 消化器内科学 准教授	内藤裕二
	ドライアイの発症機序と食品による予防と改善	慶應義塾大学 医学部 眼科 専任講師	川北哲也
	緑茶の機能性解明と利用技術の開発	(独)農研機構 野菜茶業研 上席研究員	山本(前田)万里
	教職員および大学生における生活習慣病予防のための調査	近畿大学 薬学部 医療薬学科 教授	川崎直人
9月20日	アスタキサンチンによる脂肪肝の進展抑止	金沢大学 医薬保健研究域 准教授	太田嗣人
	アディポネクチン経路に着目した機能性食品開発	東京大学大学院 工学系研究科 特任准教授	山内敏正
	肥満予防が期待できる食品素材の開発	白鶴酒造(株) 研究開発室 主任	山内隆寛
	清酒から見出されたα-グルコシルグリセロールの機能性	辰馬本家酒造(株) 研究開発室 室長	竹中史人
	酒粕から生まれた機能性新素材 プロファイバー	大関(株) 総合研究所 次長	峰時俊貴
12月21日	麹菌産生鉄キレート型環状ペプチド フェリクリシンの機能性	月桂冠(株) 総合研究所 副主任研究員	入江元子
	薬用食品にメタボリックシンドローム予防物質を探る	京都薬科大学 教授	吉川雅之
	セサミンの抗高血圧作用と血管弛緩作用メカニズム	大阪薬科大学 病態分子薬理学研究室 教授	松村靖夫
	抗がん剤シスプラチンの副作用緩和における漢方薬の役割	星薬科大学 薬動学教室 教授	杉山 清
	腸管免疫修飾による動脈硬化予防法の開発	神戸大学大学院 医学研究科 内科学講座 講師	山下智也
2013年 3月5日	味覚受容体の機能と消化管における役割	味の素(株) イノベーション研究所 フロンティア研グループ長	中村英志
	リンゴポリフェノール(プロシアニン類)の機能性について	(独)農研機構 果樹研究所 庄司俊彦	
	医農連携の成果を普及させるための戦略研究	神奈川県立保健福祉大学 学長	中村丁次
	健康食品の現状と課題	公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 理事長	下田智久
	機能性表示健康食品は、実現するか？	大阪大学大学院 工学系研究科 教授	森下竜一
6月21日	アルツハイマー病発症機構の解明に向けた基盤的研究	岐阜大学大学院 工学系研究科 助教	太田和徳
	海藻起源の機能性食品素材：フコイダンとアガロオリゴ糖	タカラバイオ(株) バイオ研究所 主任研究員	大野木宏
	生活習慣病対策の新規機能性食品素材	(株)カネカ QOL事業部 機能性食品グループ	北村志郎
	北海道産天然素材を用いた機能性食品素材の開発	(株)アミノアップ化学	三浦健人
	ホウレン草糖脂質のがん対策(予防と治療)	神戸学院大学 栄養学部 准教授	水品善之
2014年 2月19日	食による予防医学 ～ω3系脂肪酸とアンチオキシダント～	東京海洋大学 特任教授	矢澤一良
	ナノテクノロジーを活用した天然物のヒト受容体と医学応用	慶應義塾大学 医学部 医化学教室 教授	末松 誠
	くすりと食品機能に関するネットワークの形成	星薬科大学 薬物治療学教室 教授	亀井淳三
	調剤薬局が期待する健康食品	(株)阪神調剤薬局 薬局統括本部研修リーダー	蓬萊哲也
	見た目の科学からみたサプリメントの考え方	近畿大学 アンチエイジングセンター 教授	山田秀和
7月18日	カロテノイド色素β-クリプトキサンチンと生活習慣病予防	(独)農研機構 果樹研究所 上席研究員	杉浦 実
	新たな機能性表示制度の枠組と今後の展望	名古屋文理大学 フードビジネス科 教授	清水俊雄
	糖尿病と食生活:酸性体質の恐ろしさ	京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授	丸中良典
	「食品薬学」―機能性食品素材に有用なｼｰｽﾞを求めて―	近畿大学 薬学総合研究所 准教授	森川敏生
	タカラバイオの機能性食品素材について	タカラバイオ(株) CDMセンター 課長	大野木宏
9月29日	ユビキノール(還元型CoQ10)の抗疲労効果と市場展開	(株)カネカ QOL事業部 幹部職	藤井健志
	スノーデンのプラセンタ・紅参・乳酸菌	スノーデン(株) 広報開発部 理事	高橋 洋
	抗ストレス食品「アスパラガス茎熱水抽出物(ETAS)」と「ヘルシーDo」	(株)アミノアップ化学 学術部 学術開発室	前田哲宏

近畿バイオ・バイオマス研究会

2007年10月発足

開催趣旨

地球環境の持続・人口増加・脱石油・成熟社会で新価値の創造などに対応するため、バイオマス資源や微生物・動物・植物を有効に活用して、エネルギー・燃料・化成品・マテリアル・高付加価値食品などを生産する上流から下流まで一貫した実用化技術・商品開発の情報提供や支援、国の施策の情報提供なども行う。幹事の先生方と密接に連携し、国プロの取得や、会員企業の事業計画の企画立案に役立つ活動を行う。企業会員と幹事の先生方との密接な連携を図る。

開発する要素技術

1. 遺伝子組換え並びに新技術による植物バイオマスの増産・改良
2. セルロース系バイオマスの効率的な前処理と高度糖化技術
3. 発酵、酵素変換、化学処理による燃料・化成品の実用化プロセス開発
4. 生成燃料・化成品の分離、濃縮、精製を含む加工技術
5. 植物バイオマス生産と環境浄化を併用できる総合技術

活動内容

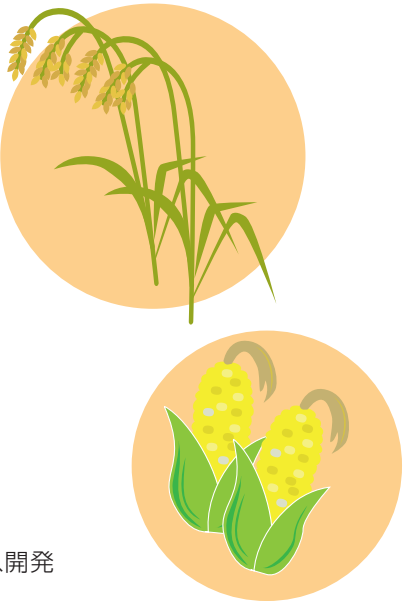
1. 4回／年 会員の開発戦略立案の役立つ研究会
2. 会員企業のPRも兼ねた公開シンポジウム
3. 日韓バイオマス研究会
4. カナダ サスカチュワン州のAg-West Bioと交流

研究会委員会

初代会長 新 名 惇 彦 （奈良先端科学技術大学院大学 副学長）
二代目会長 植 田 充 美 （京都大学大学院 教授）

2015年3月時点

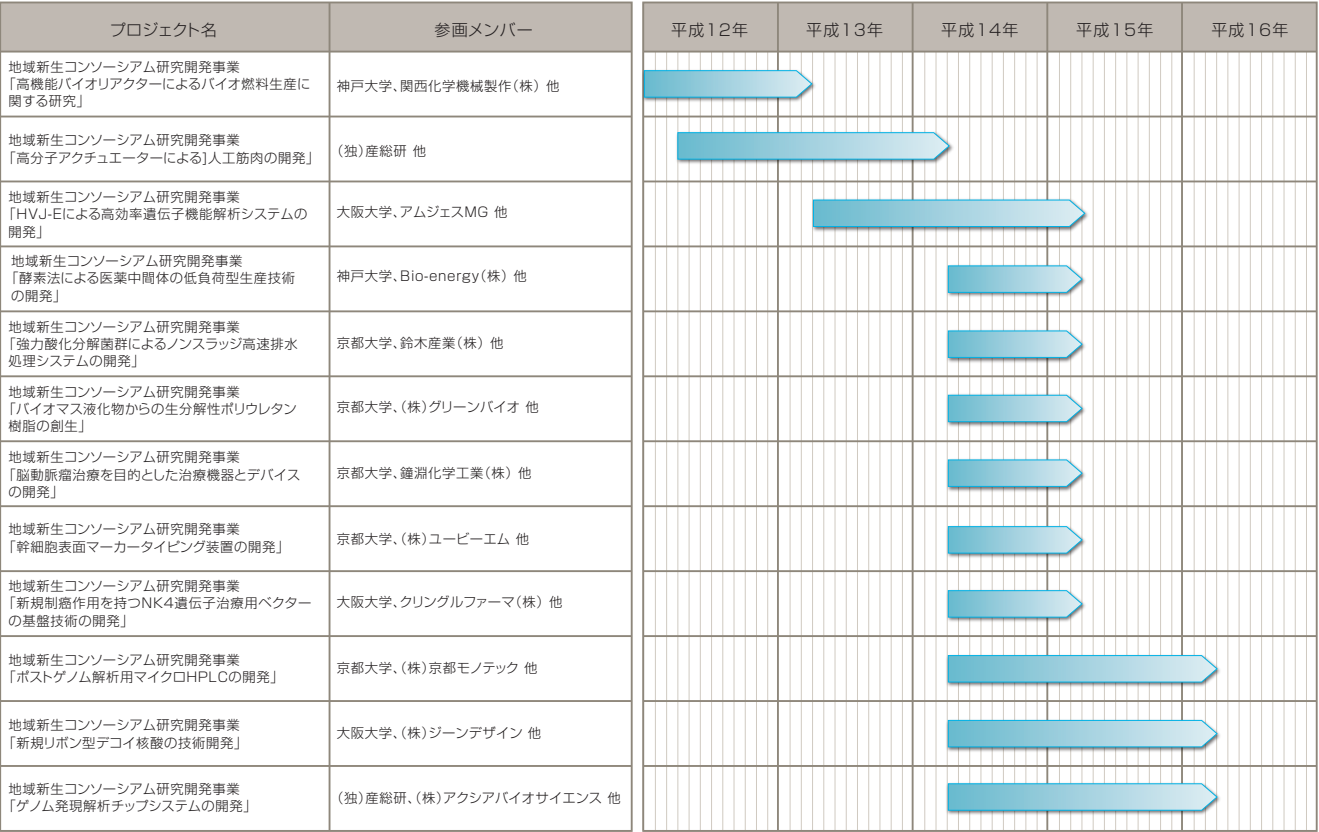
会 長	近 藤 昭 彦 （神戸大学大学院 教授）	副会長	田 丸 浩 （三重大学大学院 教授）
幹 事	池 道 彦 （大阪大学大学院 教授） 宇 山 浩 （大阪大学大学院 教授） 明 石 欣 也 （鳥取大学 准教授） 片 倉 啓 雄 （関西大学 教授）	福崎英一郎 （大阪大学大学院 教授） 片 岡 道 彦 （大阪府立大学大学院 教授） 赤 松 史 光 （大阪大学大学院 教授）	
顧 問	新 名 惇 彦 （奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授） 植 田 充 美 （京都大学大学院 教授） 成 文 喜 （国民大学校自然科学大学 教授（韓国））		
事務局	近畿バイオインダストリー振興会議		



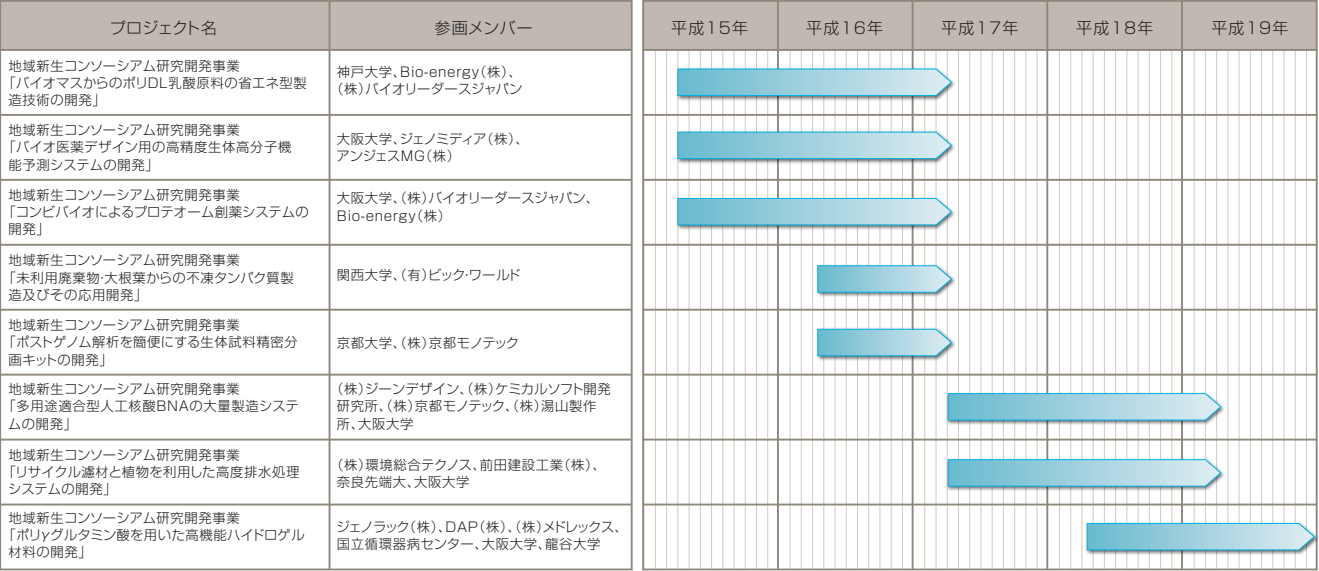
講 演 テ ー マ		講 演 者（敬称略）	
2010年 2月15日	酵素電池、微生物電池の開発動向	(株)住化技術情報センター	鍋島成泰
	木質バイオマスの微粉碎によるバイオエタノール製造技術	(独)産総研 中国バイオマス研究センター	遠藤貴士
	バイオプラスチック「ポリ乳酸」の最新動向と将来展望	京都工芸繊維大学 繊維科学センター 特任教授	望月政嗣
5月10日	木質バイオマスの水熱反応によるバイオリファイナリーの構築	京都大学大学院 エネルギー科学研究科 教授	坂 志朗
	アセトン・ブタノール発酵の温故知新	佐賀大学 農学部 生命機能科学課 准教授	小林元太
	カネカ生分解性バイオポリマー	(株)カネカ 研究開発本部 イノベーション企画部	藤木哲也
6月9日	担子菌を用いたバイオマス利用の実用化に向けて	信州大学 工学部 物質工学科 教授	天野良彦
	超音波二酸化チタン法とイオン液体を組み合わせた前処理	金澤大学 環日本海域環境研究センター 助教	仁宮一章
	水のサステナビリティと低炭素企業を目指して	サントリーホールディングス(株) エコ戦略部部长	高屋雅光
8月28日	持続可能なバイオ燃料	(社)日本エネルギー学会副会長	横山伸也
	藻類ボトリオコッカス ～未来の石油代替資源～	筑波大学大学院 生命環境科学研究科 教授	渡邊信
	温室効果ガス排出量を対象としたバイオ燃料プロセスのLCA	(独)産総研 安全科学研究部門	玄地 裕
11月29日	ポリ乳酸及びL-乳酸の製造技術について	武蔵野化学研究所	谷口正明
	トータルソリューションとしてのバイオマス活用	九州工業大学 教授	白井義人
	海藻利用と未来社会 ～海藻バイオ燃料構想を含めて～	能登谷応用藻類学研究所 能登谷正浩	
2011年 2月14日	微生物オイル生産の可能性	(独)産総研 生物プロセス研究部門	横地俊弘
	生命の根源物質5-アミノレブリン酸	SBIアラプロモ株式会社 取締役 CTO	田中 徹
	資源作物栽培によるバイオマス原料の安定供給とその利用	九州沖縄農業研究センター	我有 満
5月13日	株式会社ファーストバイオスの木質バイオマス発電事業	(株)ファーストバイオス	日下田伸
	大震災によってパラダイムシフトしたバイオマス利用位置づけ	東京大学 農学部 教授	鯨島正浩
	新規バイオポリマー創出に向けた植物由来モノマー精密重合	名古屋大学大学院 工学研究科 准教授	佐藤浩太郎
7月15日	樹脂触媒を用いた高品質バイオディーゼル燃料製造技術	東北大学大学院 工学研究科 准教授	北川尚美
	水素化分解反応によるバイオマス由来ジオールの合成	東北大学大学院 工学研究科 教授	富重圭一
8月31日	バイオマスプラスチックの広がり課題	ユニチカ(株) 中央研究所 研究開発グループ	上田一恵
	バイオディーゼル副産物を原料としたバイオプラスチック製造	日立造船(株) エンジニアリング本部	岸田央範
	ブレイクスルーを目指す、サラヤとバイオの取り組み	サラヤ(株) 代表取締役社長	更家悠介
2012年 2月24日	微生物育種工学におけるパラダイムシフト	大阪大学大学院 工学研究科 教授	原島 俊
	ペーパーラッジをバイオエタノールの生産原料に	静岡大学創造科学技術大学院 教授	朴 龍 洙
	清酒酵母の遺伝的特性とエタノール発酵への利用	(独)酒類総合研究所 研究企画知財部門	下飯 仁
5月11日	フラボノイドの代謝工学による青い花の開発と実用化	サントリーホールディングス(株) 植物科学研所長	田中良和
	植物工場ユニット agri-cube	大和ハウス工業株式会社 総合研究所 副所長	吉村 守
7月20日	木質バイオマスシンポジウム	(共催)五條市、生産技術振興協会アライアンス委員会 (後援)奈良県	
	木質バイオマスのエネルギー源としての重要性	奈良先端科学技術大学院大学 副学長	新名惇彦
	木質バイオマスガス化発電	大阪大学大学院 教授	赤松史光
	次世代バイオ固形燃料:バイオコークスの開発と展望	近畿大 教授	井田民男
	間伐材の有効利用に向けて	NPOエコデザインネットワーク	大和泰隆
	石炭焚火力発電所における木質ペレット混焼	関西電力(株)	山本哲生
9月7日	住宅業界から見た国産材	大和ハウス工業(株) 総合研究所 副所長	吉村 守
	森の流れに乗る ～新しい持続的社会へ向けて～	三重大学大学院 生物資源学研究所 教授	船岡正光
	公開 草本系バイオマスからのエタノール一貫生産技術開発	バイオエタノール革新技術研究組合	三橋秀一
11月29日	エタノール生産の今昔と関西化学機械製作の貢献	関西化学機械製作(株) 代表取締役社長	野田秀夫
	バイオマスからの高付加価値物質の検索とその応用	関西大学 化学生命工学部 准教授	河原秀久
	嫌気性微生物を活用したバイオマスからの有用物資生産	広島大学大学院 先端物質科学研究科 准教授	中島田豊
2013年 3月21日	合成代謝経路によるC3、C4バイオアルコールの生産	九州大学大学院 農学研究科 准教授	花井泰三
	バイオマスプラスチックの現状と将来展望	大阪大学大学院 工学研究科 教授	宇山 浩
	固体並行複発酵による廃棄物からエタノール生産とコスト分析	関西大学 化学生命工学部 教授	片倉啓雄
5月20日	CBP発酵を中心とした統合プロセス開発	神戸大学大学院 工学研究科 教授	近藤昭彦
	嫌気性細菌によるバイオリファイナリー研究開発	三重大学大学院 生物資源学研究所 准教授	田丸 浩
	持続的社會と健やかな生活のための微生物機能開発	京都大学大学院 農学研究科 教授	小川 順
7月31日	バイオ医薬品生産における動物細胞工学の現状	徳島大学 ソシオテクノサイエンス研究部 教授	大政健史
	ナノで考えるスマートバイオデザイン	東北大学大学院 工学研究科 准教授	梅津光央
	ガス化を利用したバイオマスからの燃料/ケミカルズ製造	(独)産総研 エネルギー技術研究部門	小木知子
9月4日	ナノセルロースにおける最近の進展	京大生体分子工学研究所 生物機能材料分野 教授	矢野浩之
	夢の繊維素材“クモ糸”実用化への挑戦	スバイバー株式会社 代表取締役社長	関山和秀
	公開 バイオマスからの新規プラスチック生産戦略	理化学研究所 環境資源科学研究センター	沼田圭司
11月21日	麹菌酵素を活用したバイオマスからのバイオエタノール生産	月桂冠株式会社 総合研究所	堤 浩子
	バイオベース化学品の生産: バイオプロセスで化学品をつくる	京都学園大学 バイオ環境学部 教授	清水 昌
	バイオマス資源:セルロース複合材料としての展開	神戸大学大学院 工学研究科 教授	西野 孝
2014年 3月26日	耐久製品用のバイオプラスチックの開発	日本電気株式会社 スマートエネルギー研究所	位地正年
	大阪大学産学連携制度による植物由来バイオポリマーの開発	大阪大学大学院 工学研究科 特任教授	中澤慶久
	油糧植物ジャトロファ:育種、生産、利用に関する海外動向	鳥取大学 農学部 生物資源環境学科 准教授	明石欣也
6月13日	木質バイオマスを用いたエネルギービジネスの経済性分析	大阪大学 環境イノベーションセンター 特任助教	木下裕介
	大都市圏におけるバイオマスエネルギー利活用に関する考察	大阪大学大学院 工学研究科 助教	中塚記章
	新規な実バイオマス前処理とその評価系構築	神戸大学大学院 工学研究科 准教授	荻野千秋
10月1日	東南アジア資源からの糖質生産技術開発と産業化への取り組み	国際農林水産業研究センター プロジェクトリーダー	小杉昭彦
	アーバンアグリとバイオマス都市圏での展開とその支援システム構築	一般社団法人テラプロジェクト 理事長	小林昭雄
	公開 アフリカの農業・バイオマス生産に如何に貢献するか	近畿バイオインダストリー振興会議 理事長	新名惇彦
	アフリカアグリファンドの意義と展望	つくばテクノロジーシード株式会社 代表取締役	佐々木美樹
	北アフリカ食業資源の機能解析と有効利用	筑波大学 北アフリカ研究センター長 教授	磯田博子
	カラハリ砂漠植物資源とヤトロファバイオマス開発	鳥取大学 農学部 准教授	明石欣也

公的資金獲得

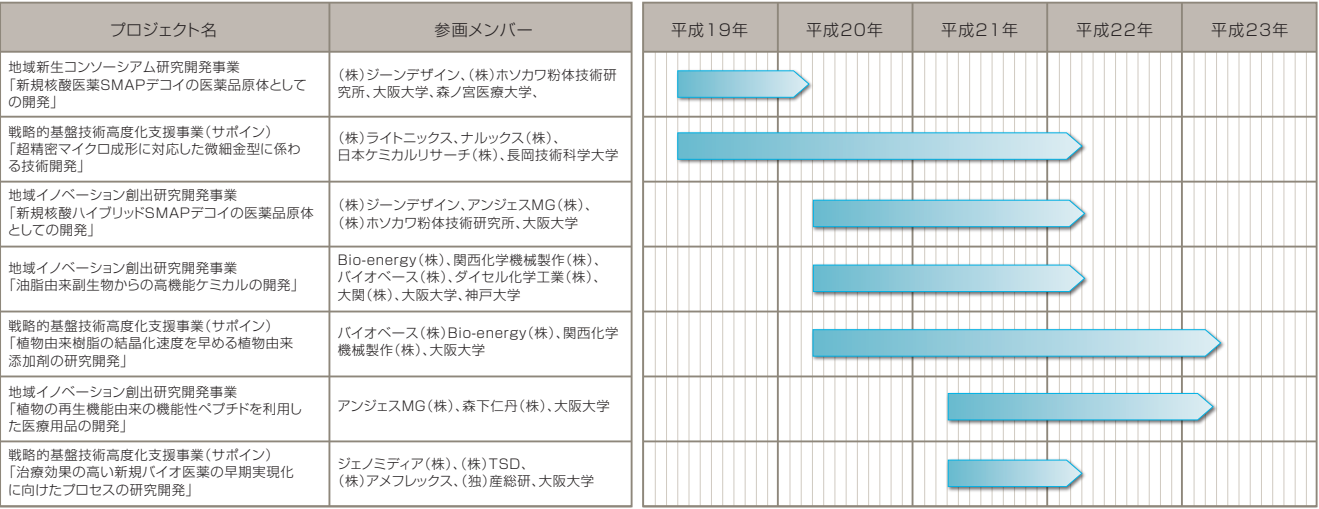
平成12年度～平成15年度



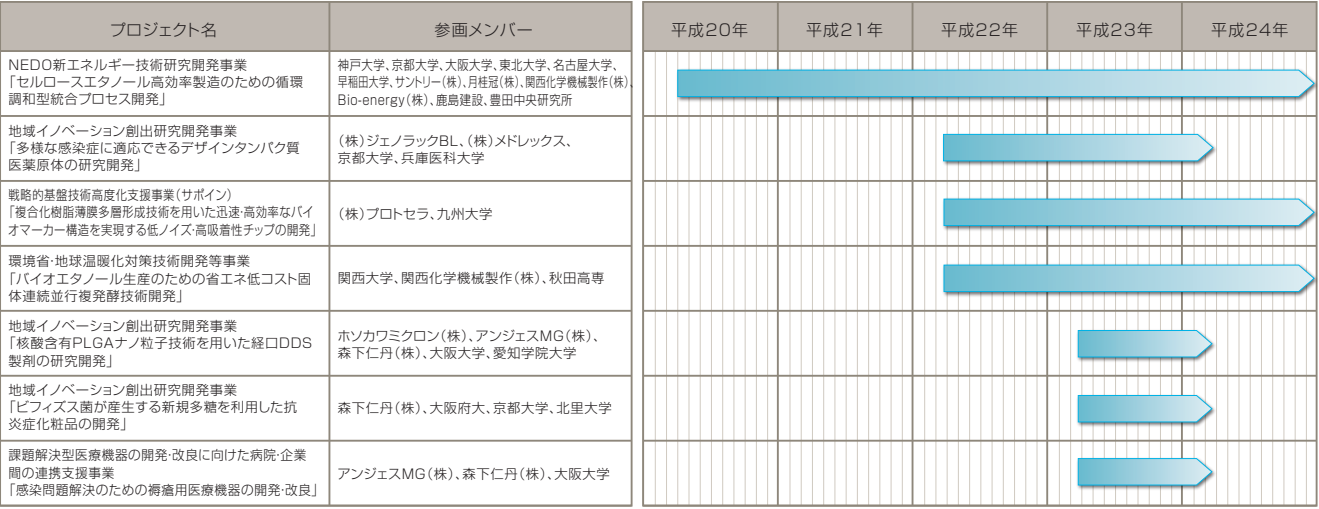
平成15年度～平成19年度



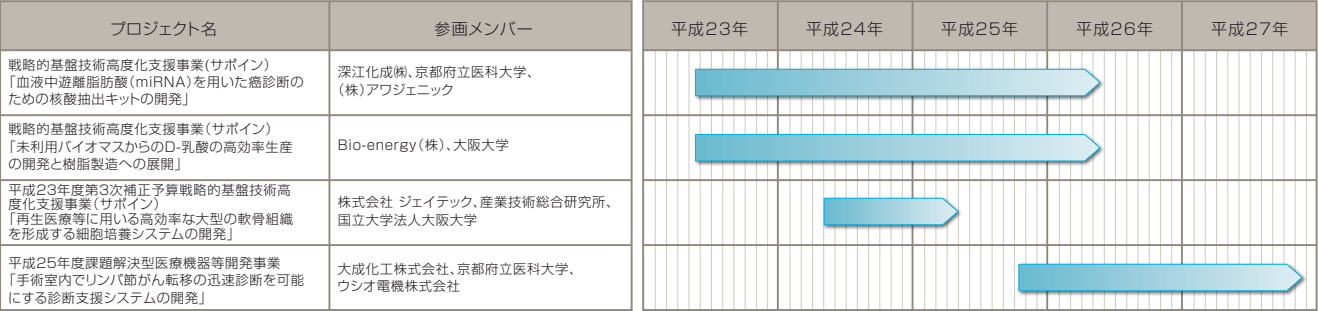
平成19年度～平成22年度



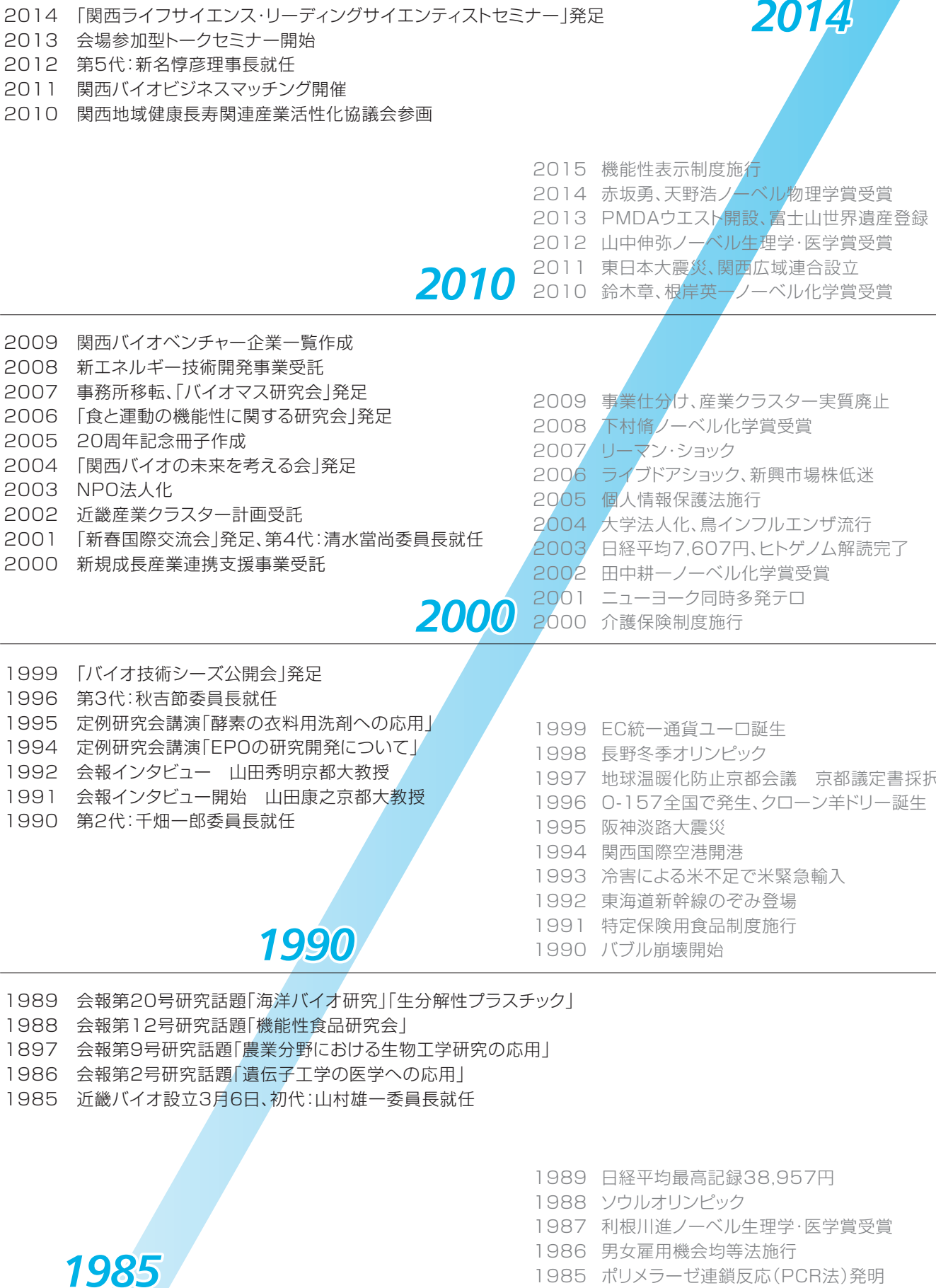
平成20年度～平成24年度



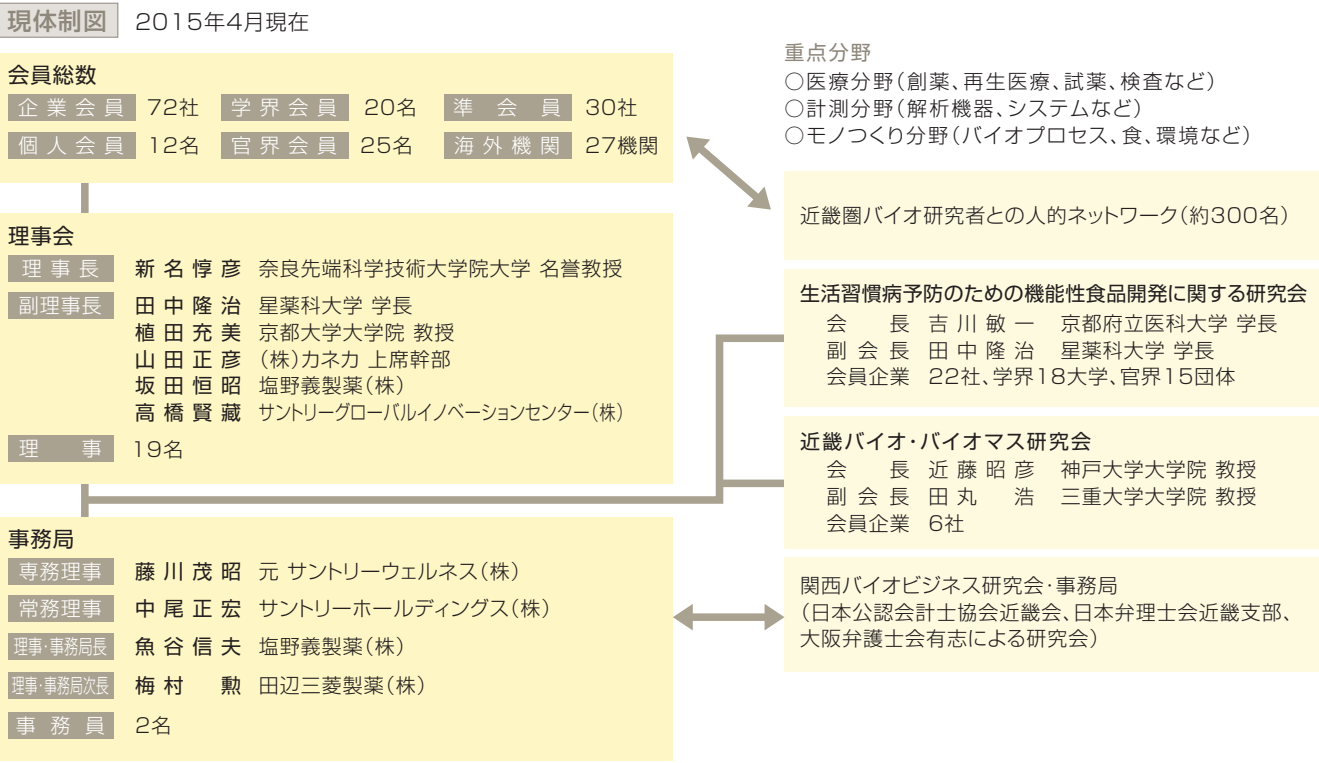
平成23年度～平成27年度



年表



NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議



事業

1. 受託事業(近畿経済産業局委託事業)

- 1 技術シーズ公開会
- 2 「次世代バイオ医薬品製造技術研究組合」との連携
- 3 ビジネスプラン作成サポート事業
- 4 関西バイオビジネスマッチング
- 5 薬局(バイヤー)と機能性食品関連ベンチャー企業との商談会
- 6 産々・産学等の個別マッチング

2. その他の近畿バイオ受託事業

- 1 経済産業省「課題解決型医療機器等開発事業」及び「医工連携事業化推進事業」の公的助成金による研究開発支援
- 2 西宮市植物生産研究センター企画業務(西宮市より受託)

3. 近畿バイオ自主事業

- 1 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会
- 2 近畿バイオ・バイオマス研究会
- 3 会場参加型トークセミナー(トップセミナー)
- 4 年末バイオセミナー、新春国際交流会
- 5 外国バイオ関連機関との交流
- 6 BioJapan 出展支援
- 7 その他
 - 関西バイオベンチャー企業一覧
 - 他機関・団体との共催・協賛セミナー
 - 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

1 役員変遷

任意団体 近畿バイオインダストリー振興会議

	委員長	副委員長				幹事長	事務局長
1985 3	山村雄一	伊藤 健	城阪俊吉	福井三郎		千畑一郎	山地哲也
1986	山村雄一	伊藤 健	城阪俊吉	福井三郎		千畑一郎	
1987 3	山村雄一	伊藤 健	城阪俊吉	福井三郎		千畑一郎	新田浩夫
1988	山村雄一	伊藤 健	城阪俊吉	福井三郎		千畑一郎	
1989	山村雄一	伊藤 健	城阪俊吉	福井三郎		千畑一郎	
1990 6	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田秀明	井上雅資
1991	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田秀明	井上雅資
1992 6	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田秀明	河原田肇
1993 6	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田康之	河原田肇
1994 6	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田康之	柳生 勝
1995	千畑一郎	岡田善雄	鳴海欽一	西澤吉彦		山田康之	柳生 勝
1996 6	秋吉 節	岡田善雄	安部川佳司	新田恒治	五十川昌孝	新名惇彦	田村 格
1997	秋吉 節	岡田善雄	安部川佳司	新田恒治	五十川昌孝	新名惇彦	田村 格
1998	秋吉 節	岡田善雄	安部川佳司	新田恒治	五十川昌孝	新名惇彦	田村 格
1999	秋吉 節	岡田善雄	安部川佳司	新田恒治	五十川昌孝	新名惇彦	田村 格
2000 6	秋吉 節	岡田善雄	安部川佳司	新田恒治	五十川昌孝	新名惇彦	遠山伸次
2001 6	清水當尚	岡田善雄	大橋武久	橋本忠夫		小林昭雄	遠山伸次

NPO 法人 近畿バイオインダストリー振興会議

	理事長	副理事長			専務理事	常務理事		理事(事勤)	事務局長	事務局次長
2002 12	清水當尚					小林昭雄	小川裕策		遠山伸次	
2003 7	清水當尚	大橋武久		田中隆治	遠山伸次	小林昭雄	田村 格		井上 了	
2004 7	清水當尚	大橋武久	新名惇彦	田中隆治	遠山伸次	小林昭雄	田村 格		井上 了	
2005 7	清水當尚	大橋武久	新名惇彦	田中隆治	長谷川淳三	小林昭雄		遠山伸次	井上 了	
2006 7	清水當尚	大橋武久	新名惇彦	田中隆治	遠山伸次	小林昭雄			井上 了	
2007 7	清水當尚	大橋武久	新名惇彦	田中隆治	遠山伸次	福田秀樹	橋本昭栄		井上 了	
2008 7	清水當尚	谷 敔孝	新名惇彦	田中隆治	遠山伸次	福田秀樹	橋本昭栄		井上 了	
2009 7	清水當尚	谷 敔孝	新名惇彦	田中隆治	遠山伸次	福田秀樹		藤川茂昭	井上 了	
2010 7	清水當尚	谷 敔孝	新名惇彦	田中隆治	遠山伸次	福田秀樹	藤川茂昭		井上 了	
2011 7	清水當尚	谷 敔孝	新名惇彦	田中隆治	遠山伸次	福田秀樹	藤川茂昭		井上 了	魚谷信夫
2012 7	新名惇彦	山田正彦	植田充美	田中隆治	井上 了	坂田恒昭	藤川茂昭		魚谷信夫	
2013 7	新名惇彦	山田正彦	植田充美	田中隆治	井上 了	坂田恒昭	藤川茂昭		魚谷信夫	
2014 7	新名惇彦	山田正彦 坂田恒昭	植田充美 高橋賢藏	田中隆治	藤川茂昭	中尾正宏			魚谷信夫	梅村 勲

2 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 平成27年度 会員リスト

正会員：団体会員（72社）

（五十音順）

機 関 名		機 関 名	
1	旭化成メディカル(株)	41	日本工業新聞社
2	アズワン(株)	42	日本公認会計士協会近畿会
3	アンジェス エムジー(株)	43	(株)日本植生グループ本社
4	(株)大阪合成有機化学研究所	44	日本たばこ産業(株)医薬総合研究所
5	大阪バイオメディカル専門学校	45	ネオケミア(株)
6	大関(株)	46	バイオ・サイト・キャピタル(株)
7	大塚製薬(株)	47	(株)バイオマーカーサイエンス
8	片山化学工業(株)	48	(株)バイオリーダーズ
9	(株)カネカ	49	パナソニック(株)
10	カルナバイオサイエンス(株)	50	ピアス(株)
11	関西化学機械製作(株)	51	日根野公認会計士事務所
12	(株)京都モノテック	52	(株)ファーマフーズ
13	クリングルファーマ(株)	53	不二製油(株)
14	(株)KRI	54	丸石製薬(株)
15	(株)ケー・エー・シー	55	(株)三菱東京UFJ銀行
16	月桂冠(株)	56	(株)三ツワフロンテック
17	神戸天然物化学(株)	57	(株)みなと銀行
18	小林製薬(株)	58	(株)メドレックス
19	サラヤ(株)	59	森下仁丹(株)
20	サンスター(株)	60	八洲薬品(株)
21	サントリーグローバルイノベーションセンター(株)	61	山本特許法律事務所
22	(株)シード・プランニング	62	洛東化成工業(株)
23	(株)ジーンデザイン	63	(株)リニカル
24	(株)ジェイテック	64	(株)ワイエムシイ
25	塩野義製薬(株)	65	ワケンビーテック(株)
26	(株)島津製作所	66	和光純薬工業(株)
27	白井松器械(株)	67	Ag-West Bio
28	スノーデン(株)	68	(一財)彩都バイオヒルズクラブ
29	住友化学(株)	69	資源リサイクルシステムセンター
30	住友ベークライト(株)	70	公益財団法人地球環境産業技術研究機構
31	(株)ダイセル	71	特定非営利活動法人バイオグリッドセンター関西
32	ダイソー(株)	72	一般社団法人バイオビジネス創出研究会
33	大日本住友製薬(株)		
34	タカラバイオ(株)		
35	田辺三菱製薬(株)		
36	(株)テクノ・エージェンツ		
37	(株)ナード研究所		
38	奈良先端科学技術大学院大学		
39	日華化学(株)		
40	日東電工(株)		

個人会員（12人）

準会員 （30社）

学会会員（20人）

官界会員（25人）

海外機関（27機関）



NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議の目的及び事業

目 的

この法人は、バイオインダストリー振興に関する事業を行うことにより、人々の健康維持・増進を図り、社会の環境を保護することによって、快適で活力のある社会作りを達成することを目的とする。

事 業

前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

特定非営利活動に関わる事業

- (1) バイオテクノロジーを産業化するためのコーディネート事業
- (2) バイオテクノロジーの情報交流・人材交流事業
- (3) バイオ関連業務委託契約によるコンサルタント事業
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議（定款より抜粋）

個人

宇 山 浩 田 口 隆 久 寺 前 順 也 二 宮 保 男 山 本 秀 策

※他、多くの企業様のご協賛をいただいております。



発行：2015年(平成27年)6月
編集・発行：NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-7-18 ビーイングビル7F Tel.06-6459-6795 Fax.06-6447-7011